

第2部

小学生の保護者調査

1 子どもと家族の状況等

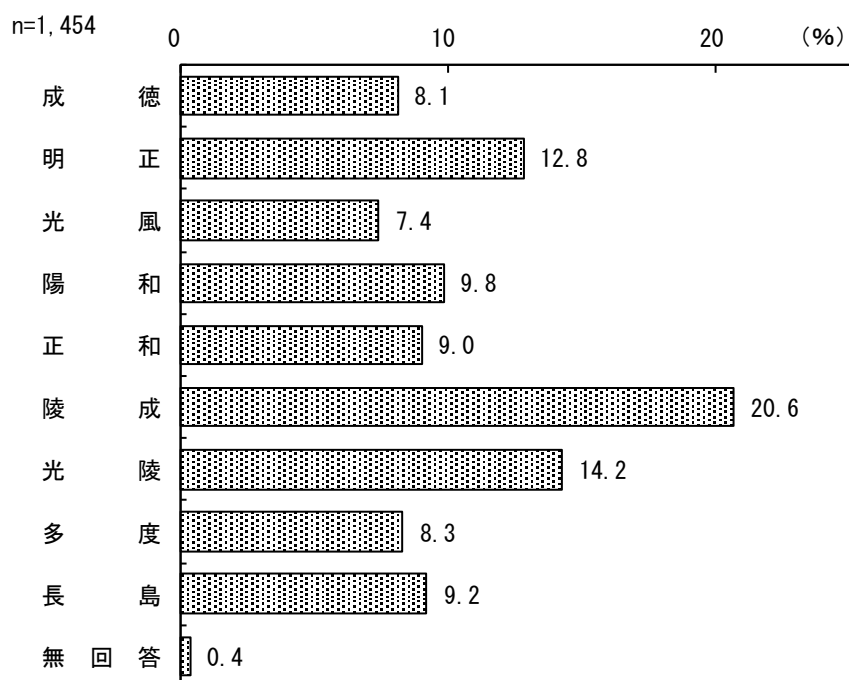
(1) 居住地区〔Q 1〕

回答のあった子どもの居住地区は、図表 2－1・2 のとおりです。

図表 2－1 居住地区〈小学校区〉

地区	日進	精義	立教	城東	益世	修徳	大成	桑部	在良	七和	久米	深谷	城南
人	44	36	13	6	71	72	83	59	56	64	67	17	80
%	3.0	2.5	0.9	0.4	4.9	5.0	5.7	4.1	3.9	4.4	4.6	1.2	5.5
地区	大和	大山田東	大山田北	大山田西	大山田南	藤が丘	星見ヶ丘	多度東	多度中	多度北	多度青葉	長島北部	長島中部
人	18	192	100	25	40	68	82	11	90	12	8	32	79
%	1.2	13.2	6.9	1.7	2.8	4.7	5.6	0.8	6.2	0.8	0.6	2.2	5.4
地区	伊曽島	無回答	全体										
人	23	6	1,454										
%	1.6	0.4	100.0										

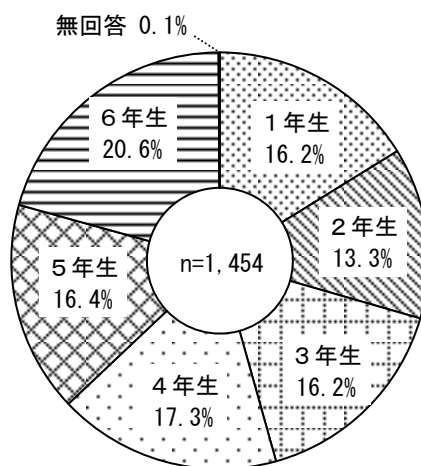
図表 2－2 居住地区〈中学校ブロック〉



(2) 学年 [Q 2]

回答のあった子どもの学年は、図表 2 - 3 のとおりです。

図表 2 - 3 子どもの年齢

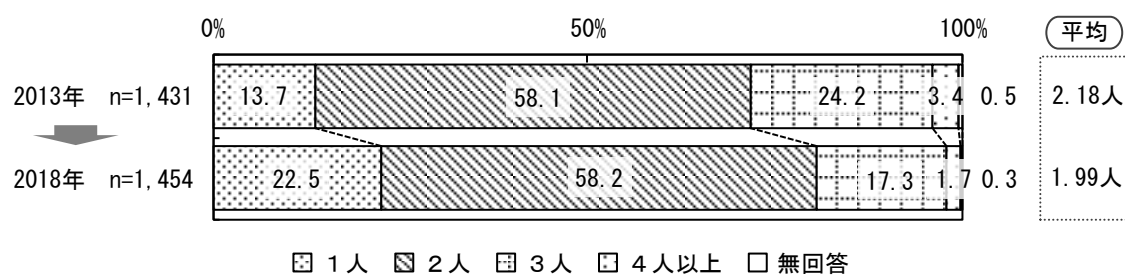


(3) 子どもの人数 [Q 3]

子どもの人数は、「2人」が58.2%を占めており、「1人」「3人」「4人以上」の順となっています。平均の子ども数は1.99人です。

2013年の調査結果との比較では、「1人」が上昇する一方、「3人」が低下しており、平均で0.19人少なくなっています。

図表 2 - 4 子どもの人数

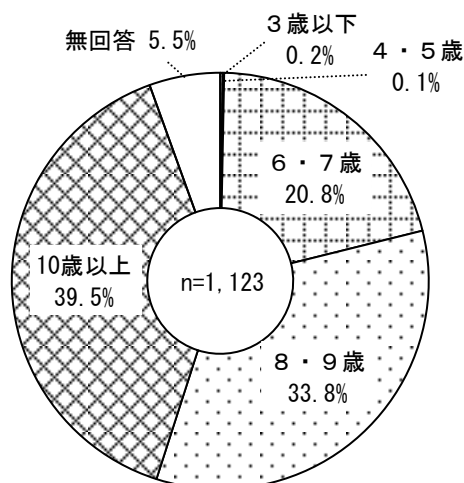


(4) 一番小さい子どもの年齢〔Q4〕

2人以上子どものいる保護者の一番小さい子どもの年齢は、「10歳以上」が39.5%、「8・9歳」が33.8%、「6・7歳」が20.8%などとなっており、「3歳以下」は0.2%です。

※小学生の保護者調査対象世帯は、就学前の子どもの保護者調査対象世帯を除いて無作為抽出しているため、この質問の回答においては、就学前の年齢の割合が低くなっています。

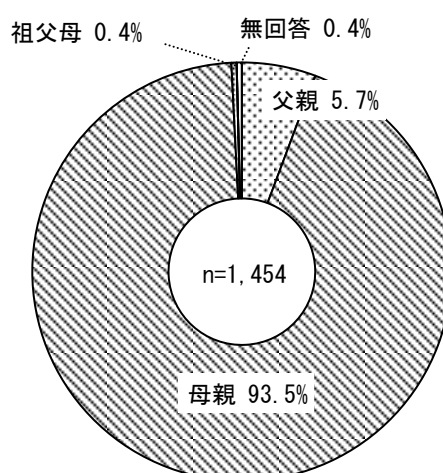
図表2-5 一番小さい子どもの年齢



(5) 調査の回答者〔Q5〕

本調査の回答者は、「母親」が93.5%を占めています。

図表2-6 調査の回答者

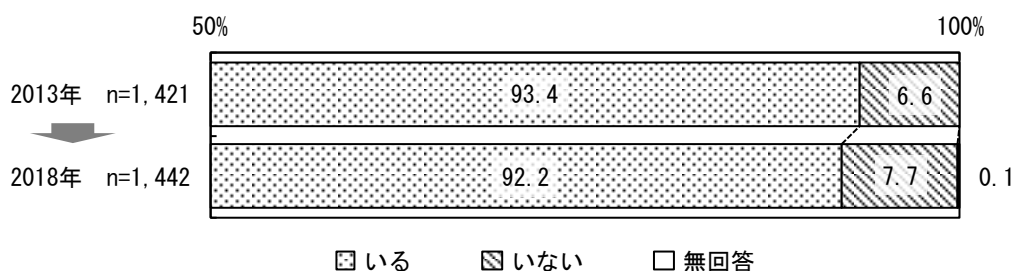


(6) 配偶関係 [Q 6]

回答者の配偶関係をたずねたところ、配偶者が「いる」が92.2%、「いない」が7.7%となっています。

2013年との比較では、「いない」が1.1ポイント上昇しています。

図表 2-7 配偶関係

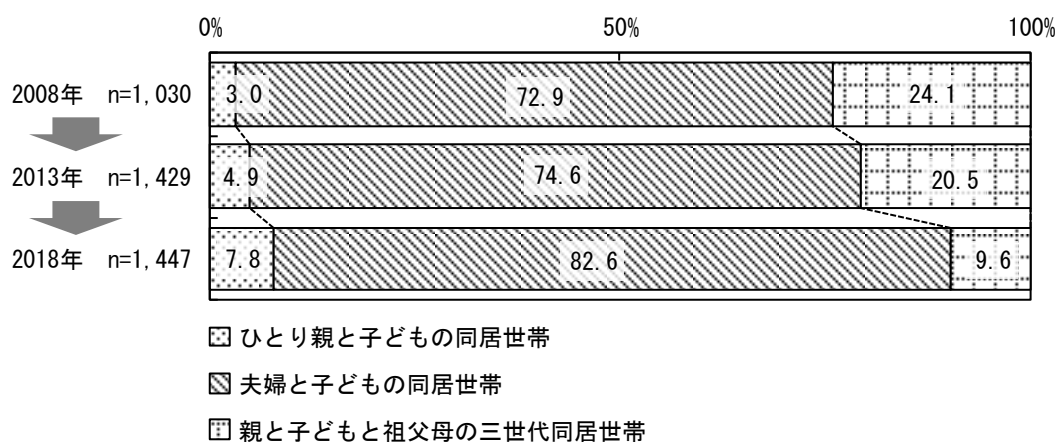


(7) 同居家族（世帯構成） [Q 7]

同居者から世帯構成をみると、夫婦と子どもの同居世帯が82.6%と圧倒的に高く、親と子どもと祖父母の三世代同居世帯が9.6%、ひとり親と子どもの同居世帯は7.8%です。

過去の調査結果との比較では、夫婦と子どもの同居世帯及びひとり親と子どもの同居家族世帯が上昇する一方、親と子どもと祖父母の三世代同居世帯が低下しています。特に2013年に比べ、親と子どもと祖父母の三世代同居世帯は13.6ポイントと大幅に低下しています。

図表 2-8 世帯構成



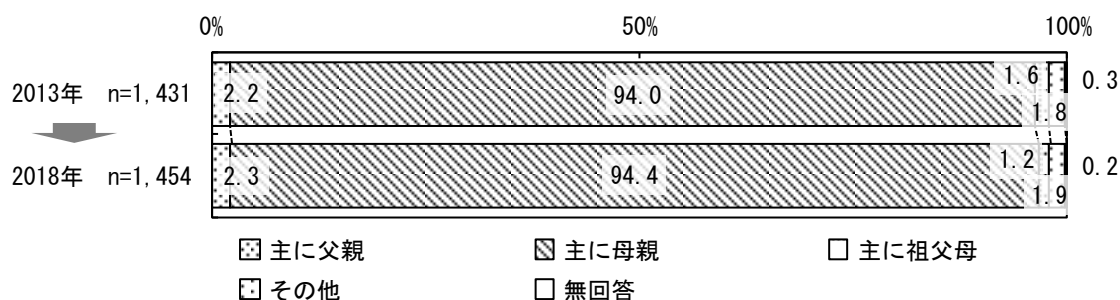
注：無回答等を除く

(8) 子育てを主に行っている人〔Q8〕

子育てを主に行っているのは、「主に母親」が94.4%を占めており、「主に父親」は2.3%、「主に祖父母」は1.2%です。

「その他」として、「父母ともに」「家族全員」の記載がありました。

図表2-9 子育てを主に行っている人

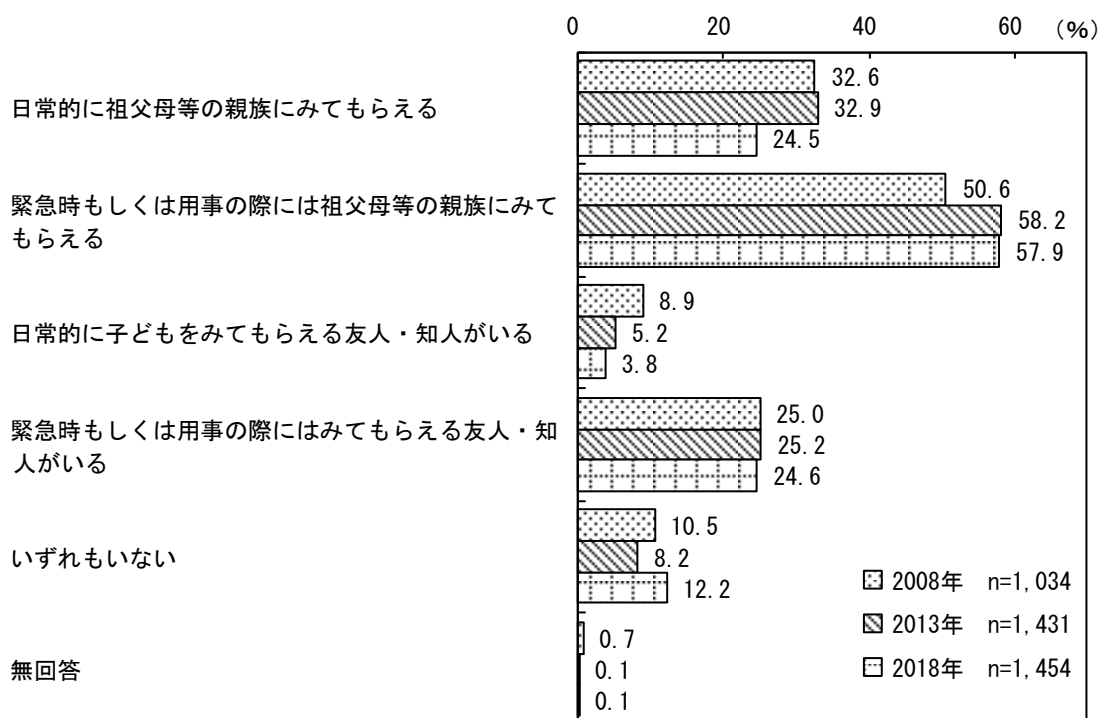


(9) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無〔Q9〕

子どもをみてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が57.9%と最も高く、次いで「緊急時もしくは用事の際にはみてもらえる友人・知人がいる」が24.6%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が24.5%となっています。

過去の調査結果との比較では、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が大幅に低下しています。

図表2-10 子どもをみてもらえる親族・知人の有無（複数回答）



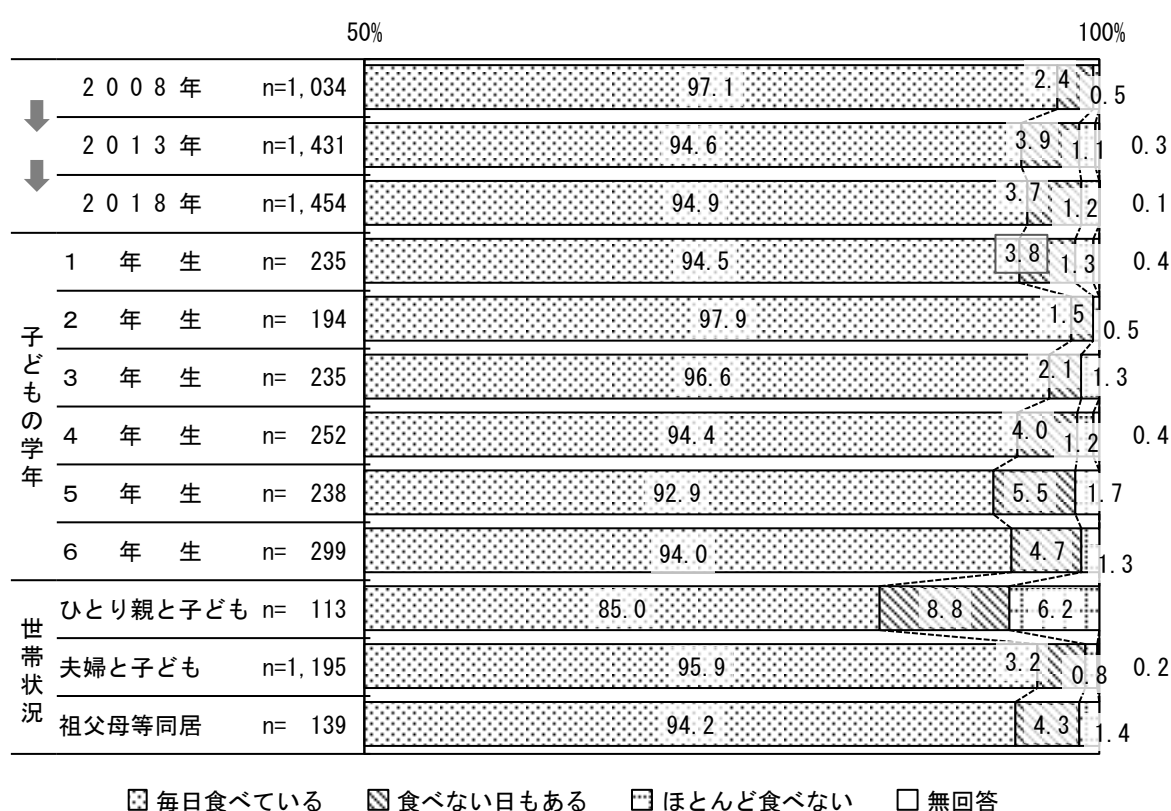
2 子どもの生活状況

(1) 朝食の摂食状況 [Q10]

ふだんの朝食の摂取については、「毎日食べている」が94.9%を占めていますが、「食べない日もある」が3.7%、「ほとんど食べない」が1.2%あります。

学年別にみると、低学年に比べ高学年が「食べない日もある」が高くなる傾向にあります。世帯状況別にみると、ひとり親と子どもの世帯では「毎日食べている」が、他の世帯に比べ約10ポイント低くなっています。

図表2-11 朝食の摂取状況



(2) 朝食を食べない理由 [Q11]

子どもが朝食をほとんど食べないと回答した18人に、食べない理由をたずねたところ、全員が「子どもが食べたがらない」と回答しています。

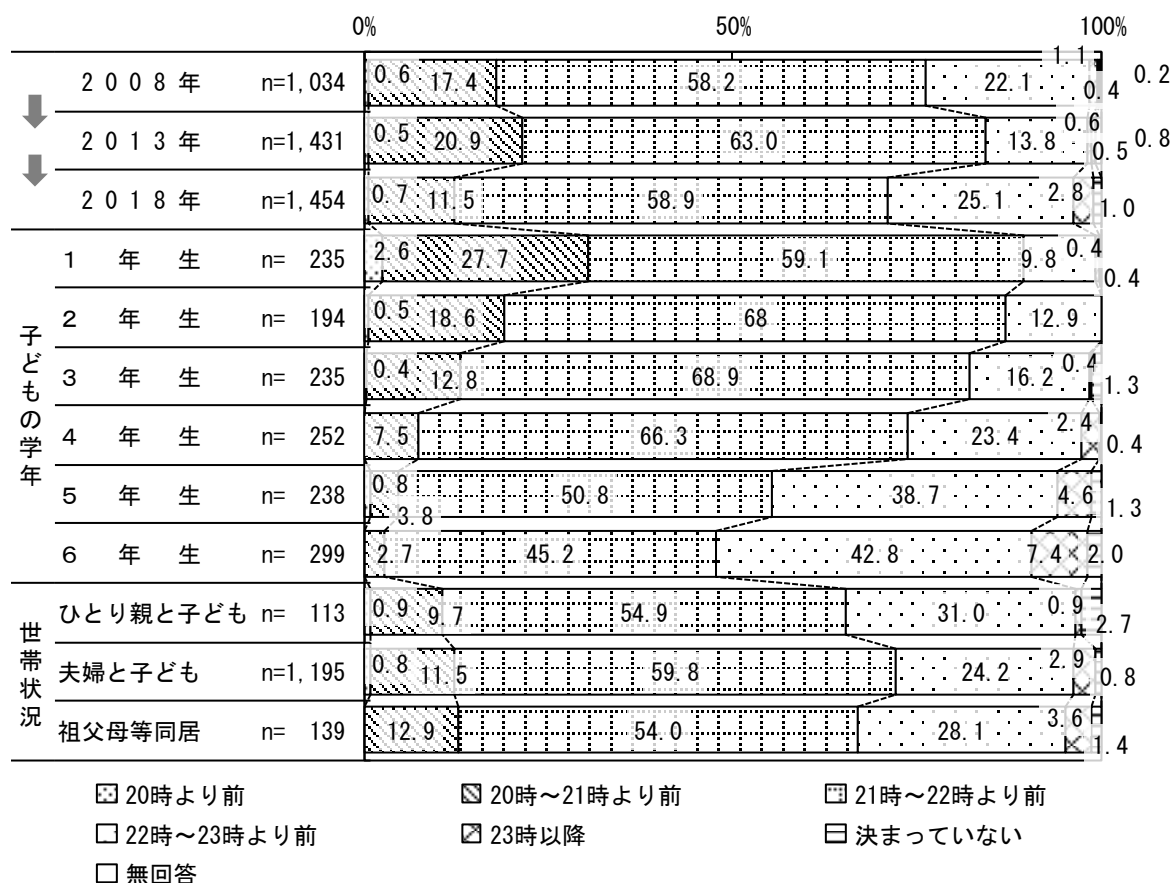
なお、選択肢として、「子どもが朝食をとる時間がない」「食事の用意をする時間がない」「子どもがダイエット中」「朝食をとる習慣がない」が用意されていましたが、回答はありませんでした。

(3) 子どもの就寝時間 [Q12]

子どもの就寝時間は「21時～22時」が58.9%と最も高くなっています。

学年別にみると、いずれの学年も「21時～22時」が最も高くなっていますが、学年が上がるにしたがい、遅くなる傾向にあり、6年生になると「22時～23時」が42.8%、「23時以降」が7.4%となります。

図表2-12 子どもの就寝時間



3 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

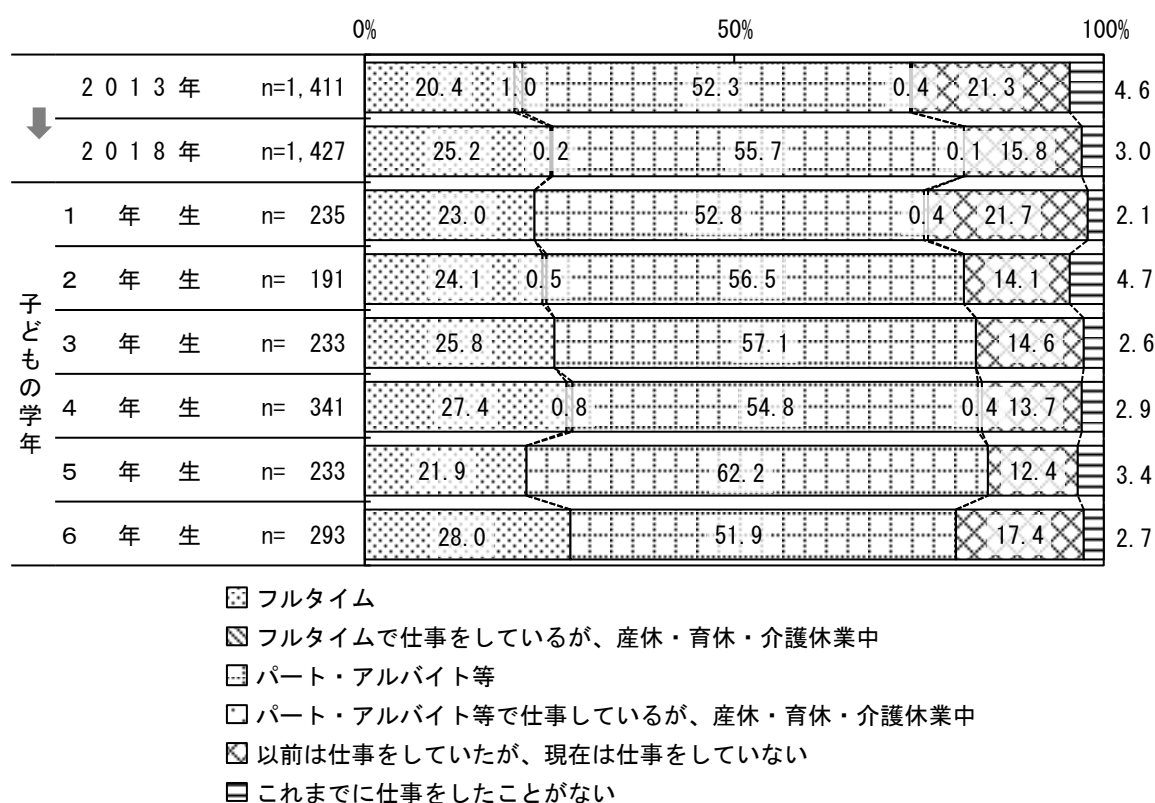
① 就労状況 [Q13]

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が55.7%と最も高く、次いで「フルタイム」が25.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が15.8%です。

2013年の調査結果との比較では、「フルタイム」及び「パート・アルバイト等」が高く、〈仕事をしていない〉人が低くなっています。

子どもの学年別にみると、学年が上がるにしたがい「フルタイム」が高くなる傾向にあり、6年生では28.0%となります。

図表2-13 母親の就労状況



② 平均就労日数 [Q14-1]

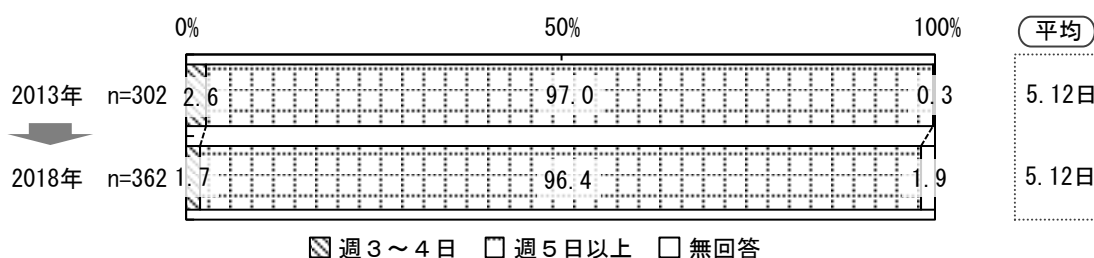
フルタイムの就労日数は、「週5日以上」が96.4%を占めています。

パート・アルバイト等の就労日数は、「週3～4日」が50.4%と最も高く、次いで「週5日以上」が41.5%となっており、1週あたりの就労日数の平均は4.08日です。

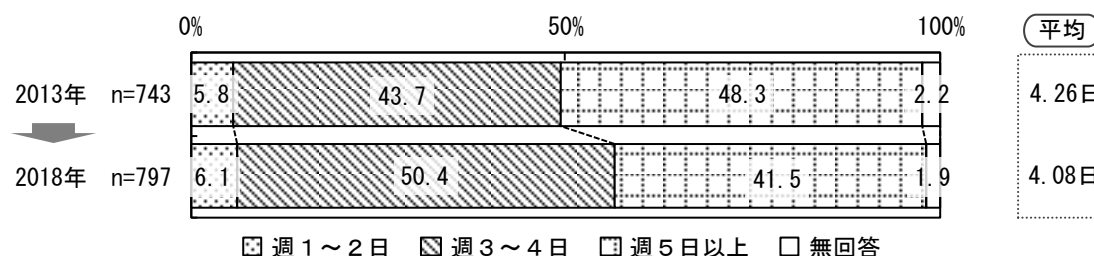
2013年の調査結果との比較では、フルタイムには大きな差異は見られませんが、パート・アルバイト等は「週5日以上」が低下する一方、「週3～4日」が上昇しており、平均も0.18日減少しています。

図表 2-14 母親の就労日数

<フルタイム>



<パート・アルバイト等>



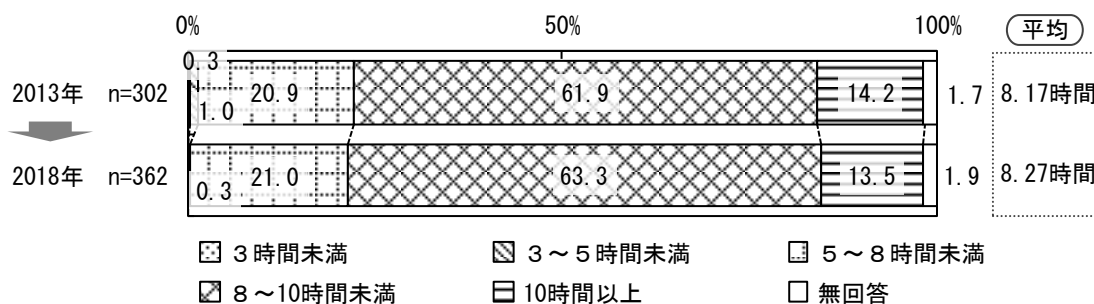
③ 就労時間 [Q14-1]

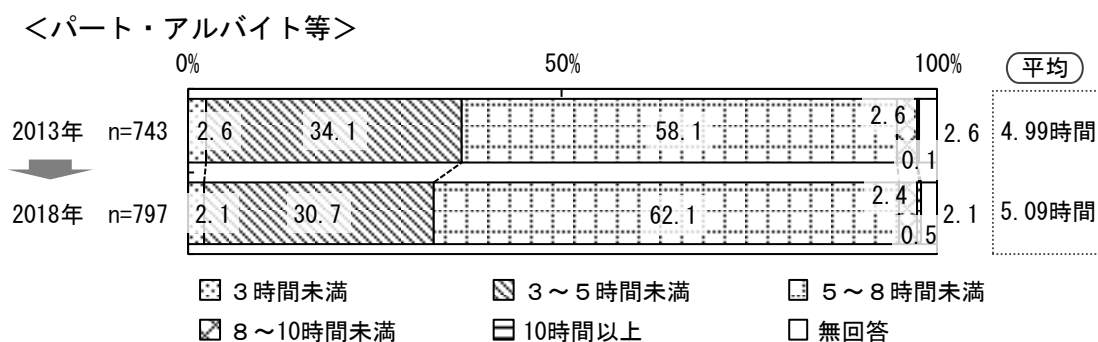
フルタイムの1日あたりの就労時間は、「8～10時間未満」が63.3%と最も高く、次いで「5～8時間未満」が21.0%、「10時間以上」が13.5%となっています。平均就労時間は8.27時間です。2013年の調査結果との比較では、大きな差異は見られません。

パート・アルバイト等の1日あたりの就労時間は、「5～8時間未満」が62.1%を占めており、次いで「3～5時間」が30.7%となっています。平均就労時間は5.09時間となっています。2013年の調査結果との比較では、「5～8時間未満」が上昇する一方、「3～5時間」が低下しています。

図表 2-15 母親の就労時間

<フルタイム>





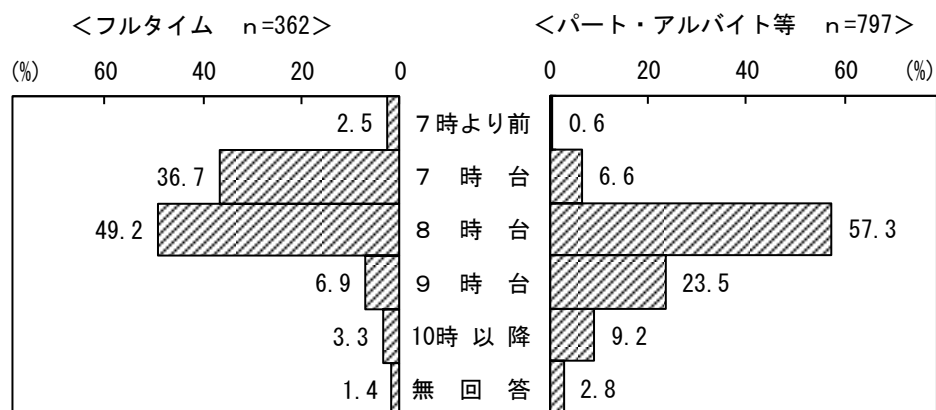
④ 家を出る時刻、帰宅時刻 [Q14-2]

母親が家を出る時刻をみると、フルタイムは、「8時台」が49.2%、「7時台」が36.7%、「7時より前」が2.5%となっており、これらを合計した88.4%が9時前に家を出ていることになります。パート・アルバイト等は、「8時台」が57.3%と最も高く、次いで「9時台」が23.5%です。

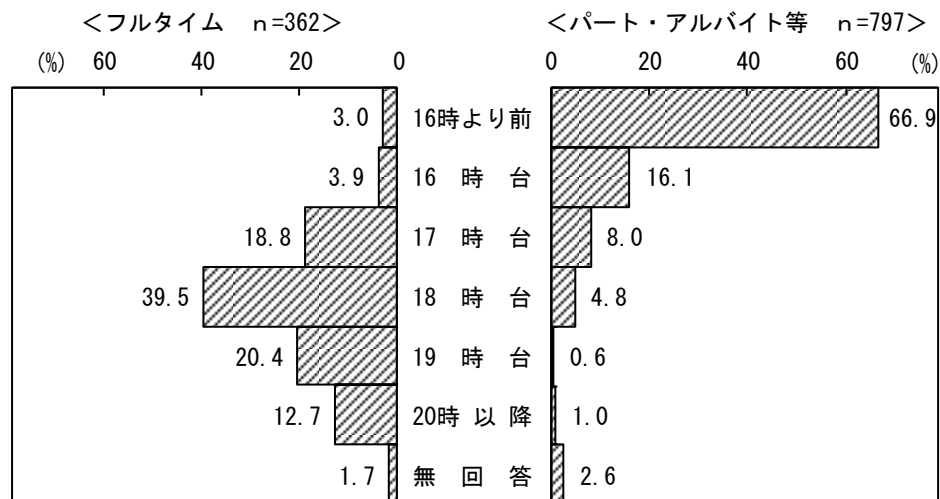
帰宅時刻は、フルタイムは「18時台」が39.5%と最も高く、次いで「19時台」が20.4%、「17時台」が18.8%となっています。パート・アルバイト等は、「16時より前」が66.9%を占め、18時までに90%以上が帰宅しています。

図表2-16 母親の家を出る時刻、帰宅時刻

■家を出る時刻



■帰宅時刻

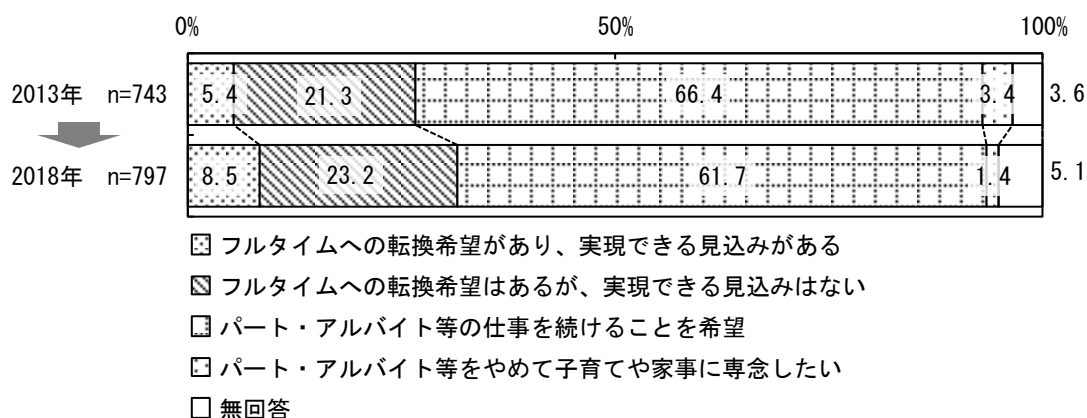


⑤ フルタイムへの転換希望 [Q15]

パート・アルバイト等と回答した人にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が61.7%を占めています。「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みがない」が23.2%、「フルタイムへの希望があり、実現できる見込みがある」が8.5%であり、合わせて《フルタイムへの転換希望がある》は31.7%となっています。「パート・アルバイト等をやめて、子育てや家事に専念したい」は1.4%です。

2013年の調査結果との比較では、《フルタイムへの転換希望がある》が5ポイント上昇しています。

図表 2-17 フルタイムへの転換希望



(2) 現在、仕事をしていない母親の就労意向 [Q16]

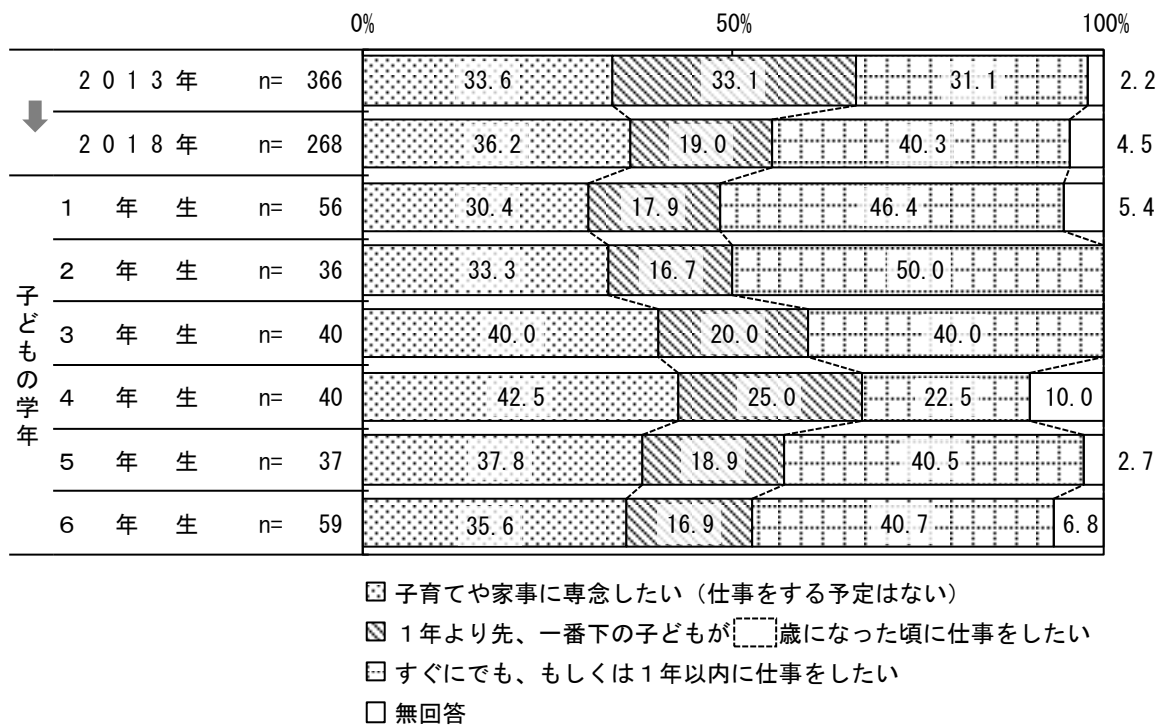
① 就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が40.3%と最も高く、次いで「子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）」が36.2%、「1年より先、一番下の子どもが□歳になった頃に就労したい」が19.0%となっています。「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」及び「1年より先、一番下の子どもが□歳になった頃に就労したい」の合計《就労したい》は59.3%になります。

2013年の調査結果との比較では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が9.2ポイント上昇する一方、「1年より先、一番下の子どもが□歳になった頃に就労したい」が14.1ポイント低下しており、《就労したい》は4.9ポイント低下しています。

子どもの学年別にみると、4年生以外の学年では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が40%以上の高い率を示していますが、4年生では20%台となっており、「子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）」が42.5%と最も高くなっています。

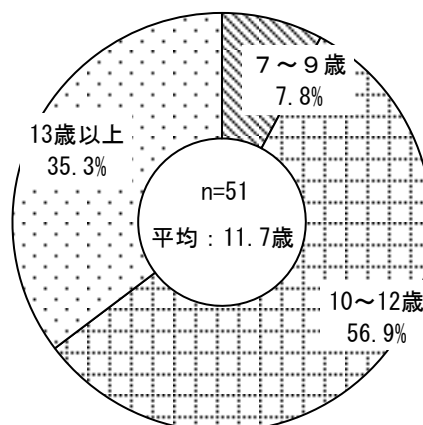
図表 2-18 母親の就労意向



② 子どもが何歳になったら就労したいか

①で、「1年より先、一番下の子どもが□歳になった頃に就労したい」と回答した51人に、子どもが何歳になったら就労したいかをたずねたところ、「10～12歳」が56.9%を占めており、次いで「13歳以上」が35.3%、「7～9歳」が7.8%となっています。平均は11.7歳です。

図表 2-19 子どもが何歳になったら就労したいか

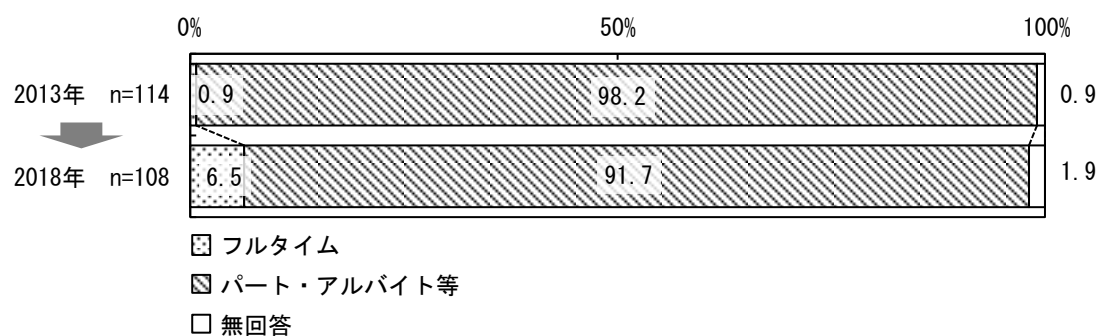


③ 希望する就労形態

①で、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した108人に、希望する就労形態をたずねたところ、「パート・アルバイト等」が91.7%を占めています。

2013年の調査結果との比較との比較では、「フルタイム」が5.6ポイント上昇しています。

図表2-20 希望する就労形態



④ 希望する就労日数、就労時間

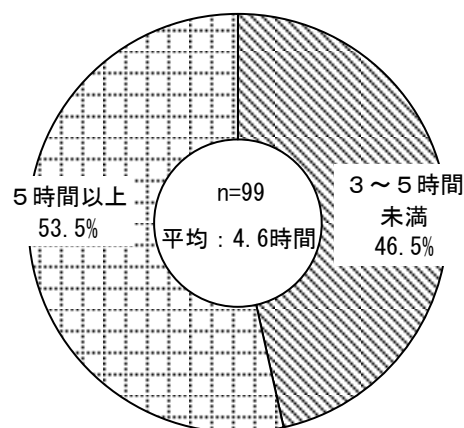
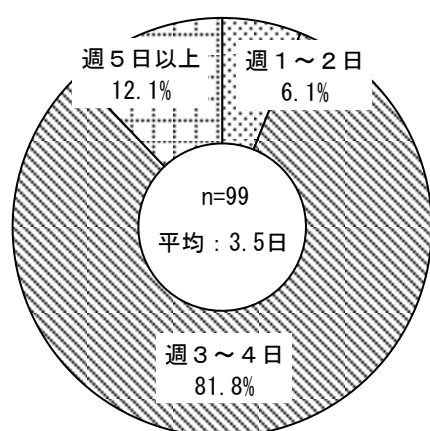
③で、「パート・アルバイト等」と回答した99人に、希望する就労日数をたずねたところ、「週3～4日」が81.8%を占めています。次いで「週5日以上」が12.1%となっており、希望就労日数の平均は3.5日です。

希望する1日あたりの就労時間は、「5時間以上」が53.5%、「3～5時間未満」が46.5%で、平均は4.6時間となります。

図表2-21 希望する就労日数、就労時間

■就労日数

■就労時間

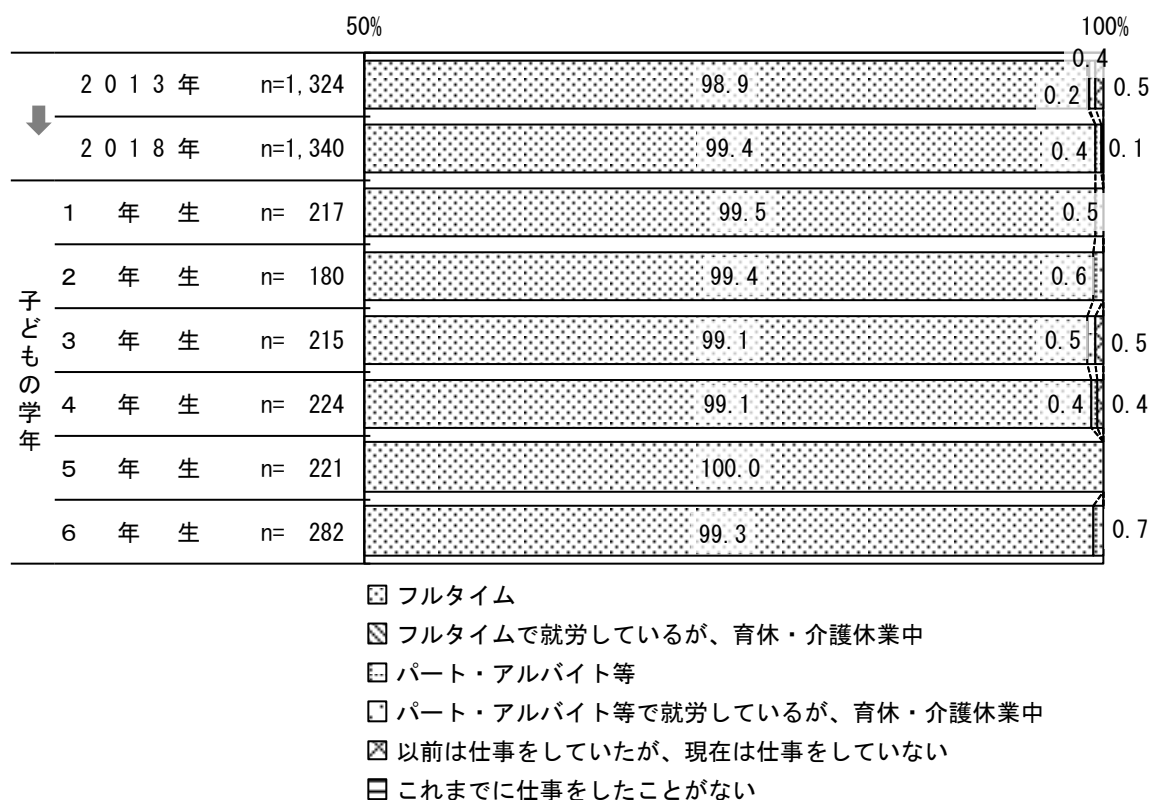


(3) 父親の就労状況

① 就労状況〔Q17〕

父親の就労状況は、「フルタイム」が99.4%を占めており、「パート・アルバイト等」が0.4%（6人）、「以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」が0.1%（2人）です。「フルタイムで仕事をしているが、育休・介護休業中」「パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中」及び「これまでに仕事をしたことがない」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

図表 2-22 父親の就労状況



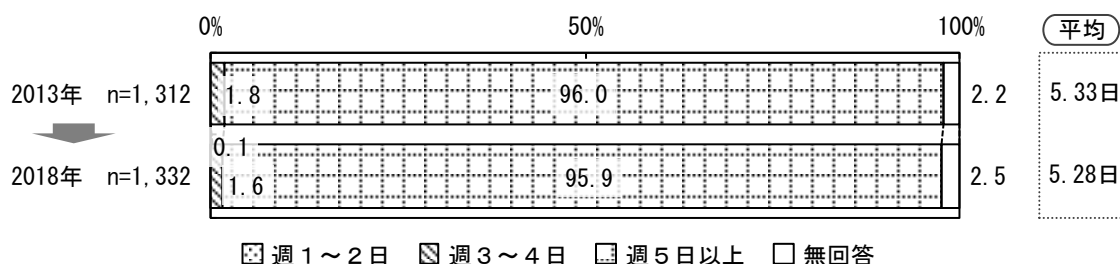
② 平均就労日数〔Q18-1〕

フルタイムの就労日数は、「週5日以上」が95.9%を占めており、平均は5.28日です。

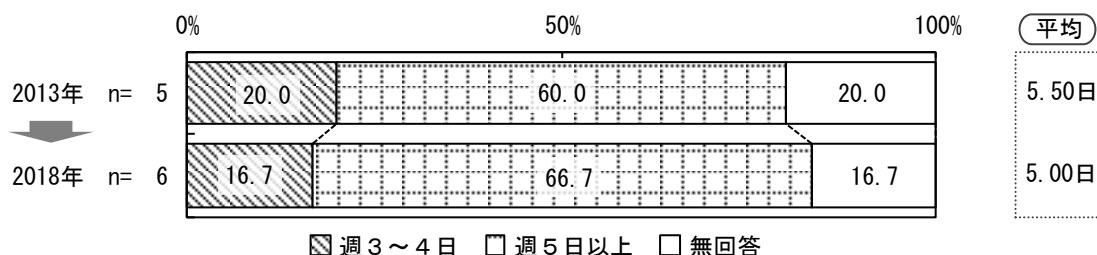
パート・アルバイト等の就労日数は、「週5日以上」が66.7%（4人）、「週3～4日」が16.7%（1人）となっています。1週あたりの就労日数の平均は5.00日です。

図表 2-23 父親の平均就労日数

<フルタイム>



<パート・アルバイト等>



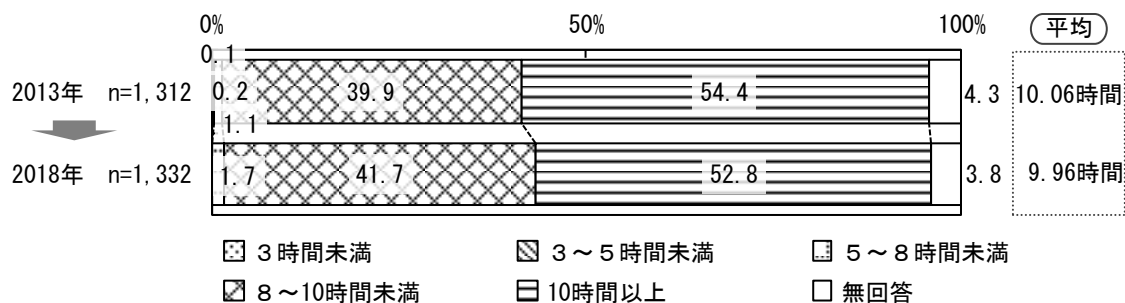
③ 就労時間 [Q18-1]

フルタイムの1日あたりの就労時間は、「10時間以上」が52.8%と最も高く、次いで「8～10時間未満」が41.7%となっています。就労時間の平均は9.96時間です。パート・アルバイト等の就労時間は、「5～8時間」及び「10時間以上」がそれぞれ33.3%（2人）で、1日あたりの平均就労時間は9.00時間となっています。

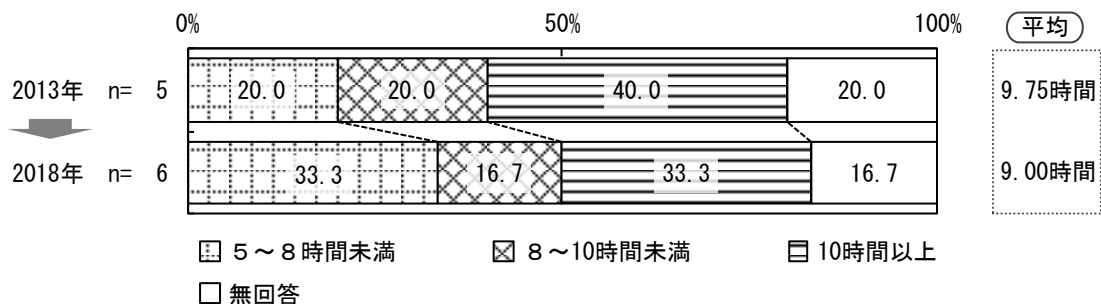
2013年の調査結果との比較では、フルタイム、パート・アルバイト等ともに平均就労時間が短くなってきています。

図表2-24 父親の平均就労時間

<フルタイム>



<パート・アルバイト等>



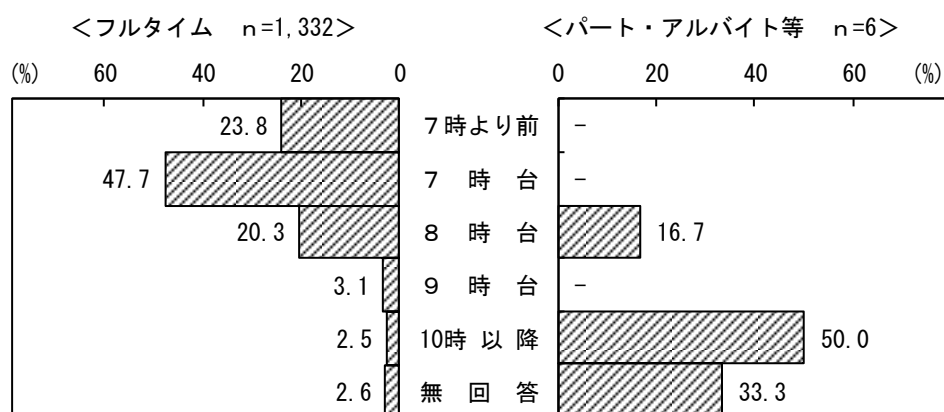
④ 家を出る時刻、帰宅時刻 [Q18-2]

父親が家を出る時刻をみると、フルタイムは、「7時台」が47.7%、「7時より前」が23.8%、「8時台」が20.3%となっています。パート・アルバイト等は、「10時以降」が50.0%（3人）です。

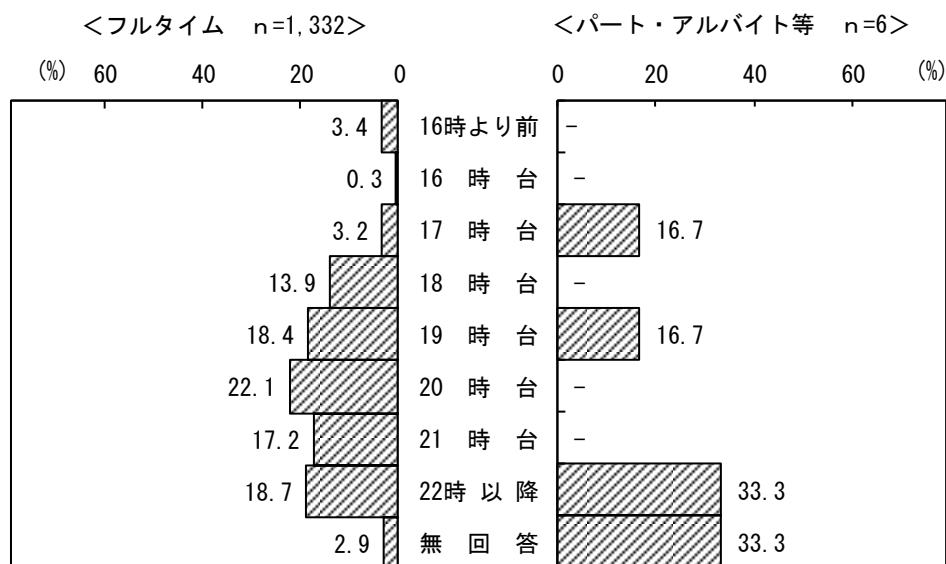
帰宅時刻は、フルタイムは「20時台」が22.1%と最も高くなっていますが、「22時以降」も18.7%あります。パート・アルバイト等は「22時以降」が33.3%（2人）、「17時台」及び「19時台」が各16.7%（1人）となっています。

図表2-25 父親の家を出る時刻、帰宅時刻

■家を出る時刻



■帰宅時刻



⑤ フルタイムへの転換希望 [Q19]

パート・アルバイト等と回答した6人にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、5人が「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と回答しており、1人が無回答でした。「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」及び「パート・アルバイト等をやめて、子育てや家事に専念したい」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

(4) 父親の就労意向 [Q20]

現在、仕事をしていない父親（Q17で「以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」と回答した2人）の就労意向は、1人が「子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）」、もう1人が「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答しています。「1年より先、一番下の子どもが 歳になった頃に就労したい」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

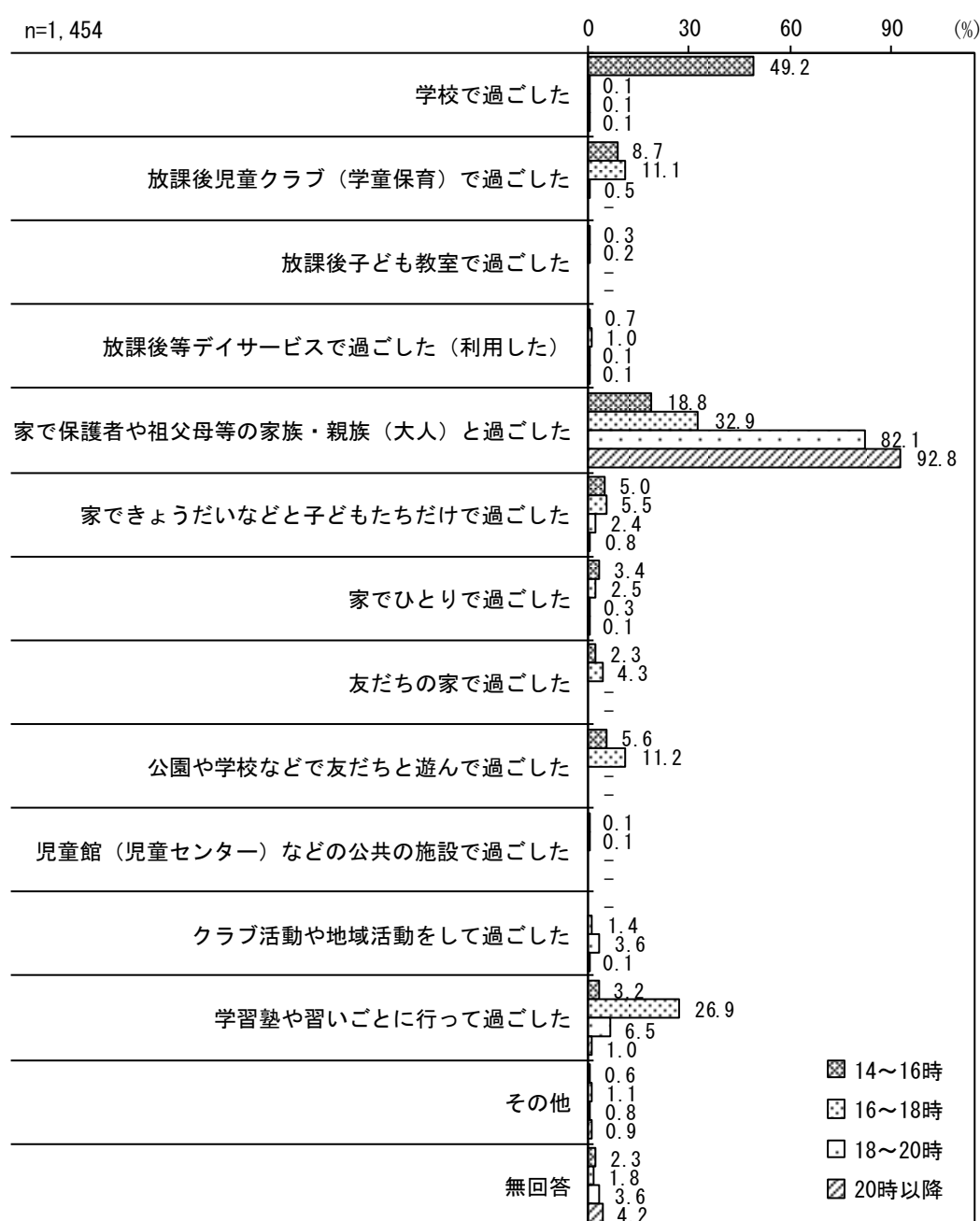
「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した1人は「フルタイム」を希望しています。

4 放課後等の子どもの居場所

(1) 平日の放課後の過ごし方〔Q21〕

平日の放課後の子どもの過ごし方として一番多いものを、時間帯（2時間）ごとにたずねたところ、14～16時は「学校にいた」が49.2%で、18～20時及び20時以降は80%以上が「保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした」と回答しています。過ごし方が異なるのは16～18時の時間帯で、「保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした」が32.9%、「学習塾や習いごとに行っていた」が26.9%、「公園などで友だちと遊んでいた」が11.2%、「放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした」が11.1%などとなっています。

図表 2-26 平日の放課後の過ごし方（全体）



子どもの学年別にみると、16～18時の時間帯は、1～3年生及び6年生は「保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした」が、4・5年生は「学習塾や習いごとに行っていた」が最も高くなっています。

図表2-27 平日の放課後の過ごし方（全体、学年別）

単位：nは人、他は%

区 分		学校で過ごした	放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした	放課後子ども教室で過ごした	放課後等デイサービスで過ごした（利用した）	家で保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした	家でできるなど子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家で過ごした	公園や学校などで友だちと遊んで過ごした	児童館（児童センター）などの公共施設で過ごした	クラブ活動や地域活動をして過ごした	学習塾や習いごとに行って過ごした	その他	無回答
1年生 n=235	14～16時	23.0	18.7	0.9	0.9	36.6	3.4	1.3	4.3	6.4	-	-	2.6	-	2.1
	16～18時	-	18.3	0.4	0.9	39.6	2.1	0.9	3.8	7.2	0.4	0.9	22.1	0.9	2.6
	18～20時	-	-	-	-	91.5	1.3	-	-	-	-	1.3	0.4	1.3	4.3
	20時以降	-	-	-	-	94.5	0.9	-	-	-	-	-	-	0.4	4.3
2年生 n=194	14～16時	35.6	17.0	-	1.0	26.3	5.7	1.0	1.5	6.2	-	-	2.1	1.5	2.1
	16～18時	-	18.0	-	1.0	39.7	2.6	0.5	2.6	10.8	-	1.0	20.6	1.5	1.5
	18～20時	-	0.5	-	-	88.1	3.1	-	-	-	-	2.1	1.5	2.1	2.6
	20時以降	-	-	-	-	94.3	1.0	-	-	-	-	0.5	-	0.5	3.6
3年生 n=235	14～16時	43.0	10.2	-	0.9	18.3	4.3	2.6	3.0	7.7	0.4	-	6.4	1.3	2.1
	16～18時	-	17.0	-	1.7	34.5	4.7	0.9	3.8	10.2	-	0.9	24.3	1.3	0.9
	18～20時	-	0.4	-	-	88.1	0.4	0.4	-	-	-	1.7	6.0	-	3.0
	20時以降	-	-	-	-	95.3	0.4	-	-	-	-	-	0.4	0.4	3.4
4年生 n=252	14～16時	51.2	5.6	0.8	0.8	17.5	5.6	2.8	2.4	4.0	-	-	4.8	-	4.8
	16～18時	-	7.9	0.8	1.2	30.2	3.6	1.2	4.8	11.1	-	0.4	34.9	0.8	3.2
	18～20時	-	0.8	-	-	80.2	2.4	-	-	-	-	4.4	5.6	0.4	6.3
	20時以降	-	-	-	-	91.3	0.8	-	-	-	-	-	0.4	0.8	6.7
5年生 n=238	14～16時	68.1	1.7	-	-	8.0	4.2	4.2	1.7	8.0	-	-	2.1	0.4	1.7
	16～18時	-	4.6	-	0.4	24.4	8.0	5.0	5.9	18.5	-	2.1	28.6	1.3	1.3
	18～20時	-	0.8	-	-	75.2	3.4	1.3	-	-	-	5.0	10.1	0.4	3.8
	20時以降	-	-	-	-	90.8	0.4	0.4	-	-	-	-	1.7	2.1	4.6
6年生 n=299	14～16時	67.2	2.3	-	0.3	10.0	6.4	7.4	1.0	2.3	-	-	1.7	0.3	1.0
	16～18時	0.3	4.0	-	1.0	31.1	10.4	5.4	4.3	9.7	-	2.7	28.8	1.0	1.3
	18～20時	0.3	0.3	-	-	73.6	3.7	0.3	-	-	-	6.0	13.0	0.7	2.0
	20時以降	0.3	-	-	-	91.6	1.3	-	-	-	-	0.3	2.7	1.0	2.7

母親の就労状況別にみると、16～18時台については、フルタイムでは「放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした」が最も高くなっています。

図表 2－28平日の放課後の過ごし方（母親の就労状況別）

単位：nは人、他は%

区分		学校で過ごした	放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした	放課後子ども教室で過ごした	放課後等デイサービスで過ごした（利用した）	家で保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした	家でひたひたなど子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家で過ごした	公園や学校などで友だちと遊んで過ごした	児童館（児童センター）などの公共施設で過ごした	クラブ活動や地域活動をして過ごした	学習塾や習いごとに行って過ごした	その他	無回答
フルタイム n=359	14～16時	39.0	23.7	0.3	1.1	11.7	7.5	5.3	1.4	4.2	0.3	－	3.6	0.6	1.4
	16～18時	－	31.8	0.3	0.8	17.0	11.4	5.6	2.5	6.7	0.3	1.4	19.2	0.8	2.2
	18～20時	－	1.1	－	－	75.2	7.0	1.1	－	－	－	3.1	6.1	1.9	4.5
	20時以降	－	－	－	－	90.8	1.1	－	－	－	－	－	1.1	1.7	5.3
パート等 n=795	14～16時	50.6	4.4	0.4	0.6	20.5	5.4	3.1	2.5	6.3	－	－	3.6	0.6	1.9
	16～18時	0.1	4.9	0.3	0.9	37.7	4.3	1.8	4.8	12.5	－	1.8	28.2	1.4	1.5
	18～20時	0.1	0.3	－	0.1	83.9	1.1	0.1	－	－	－	4.3	6.9	0.5	2.6
	20時以降	0.1	－	－	0.1	93.8	0.9	0.1	－	－	－	0.3	0.8	0.8	3.1
産休・育休等 n=5	14～16時	20.0	20.0	－	－	－	－	20.0	20.0	－	－	－	20.0	－	－
	16～18時	－	20.0	－	－	60.0	20.0	－	－	－	－	－	－	－	－
	18～20時	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	20時以降	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
非就労 n=268	14～16時	59.3	－	－	0.4	24.6	0.7	1.1	2.6	5.6	－	－	1.1	0.4	4.1
	16～18時	－	0.4	－	1.1	39.9	1.1	0.4	5.6	13.8	－	－	34.7	0.7	2.2
	18～20時	－	－	－	－	87.3	－	－	－	－	－	1.9	6.0	－	4.9
	20時以降	－	－	－	－	92.9	0.4	－	－	－	－	－	1.1	0.4	5.2

(2) 放課後児童クラブの利用状況

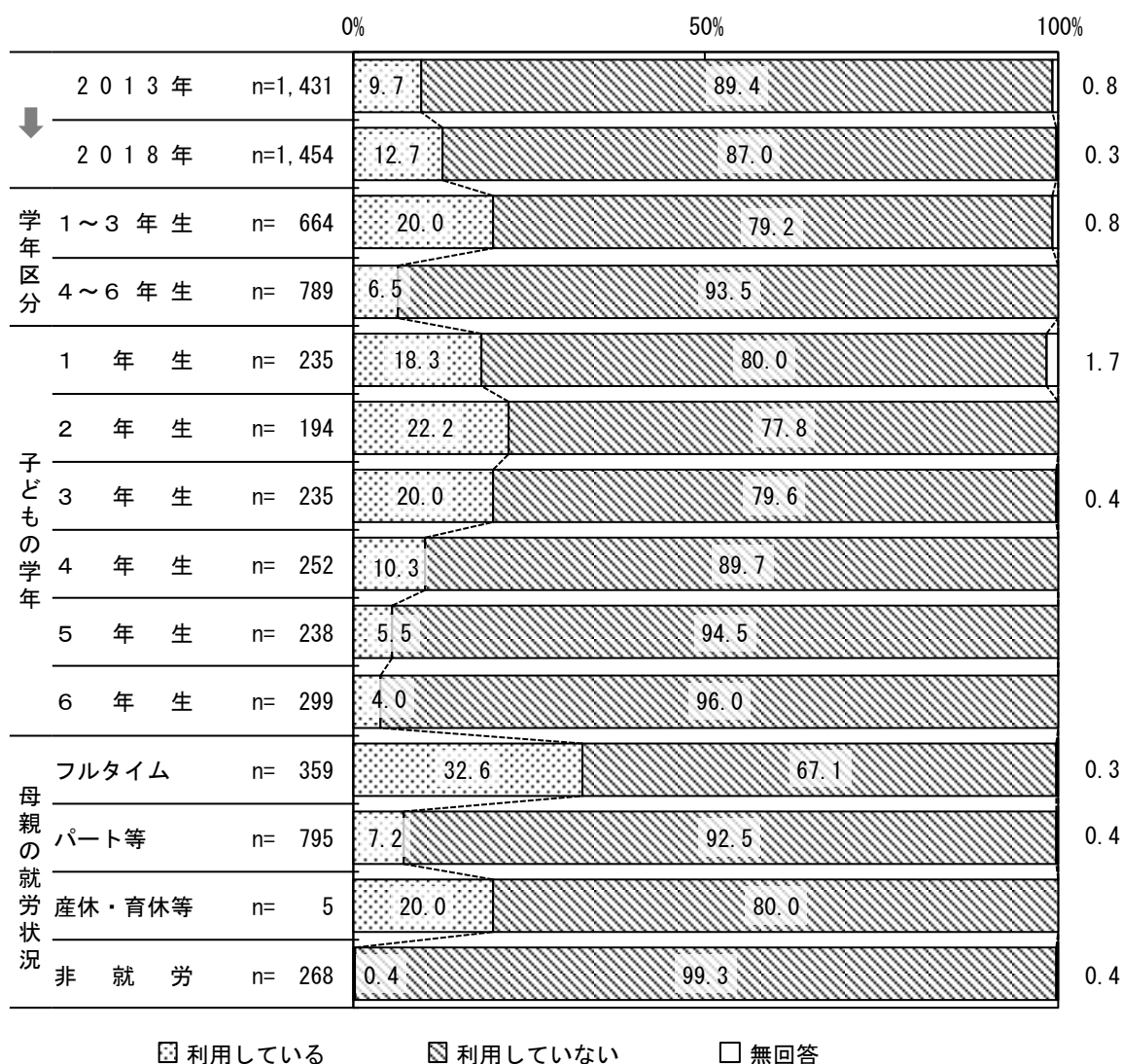
① 利用状況 [Q22]

放課後児童クラブを「利用している」は、全体で12.7%ですが、3年生以下に限ってみると20.0%です。4年生以上では「利用している」は6.5%となります。

2013年の調査結果との比較では、「利用している」が3ポイント上昇しています。

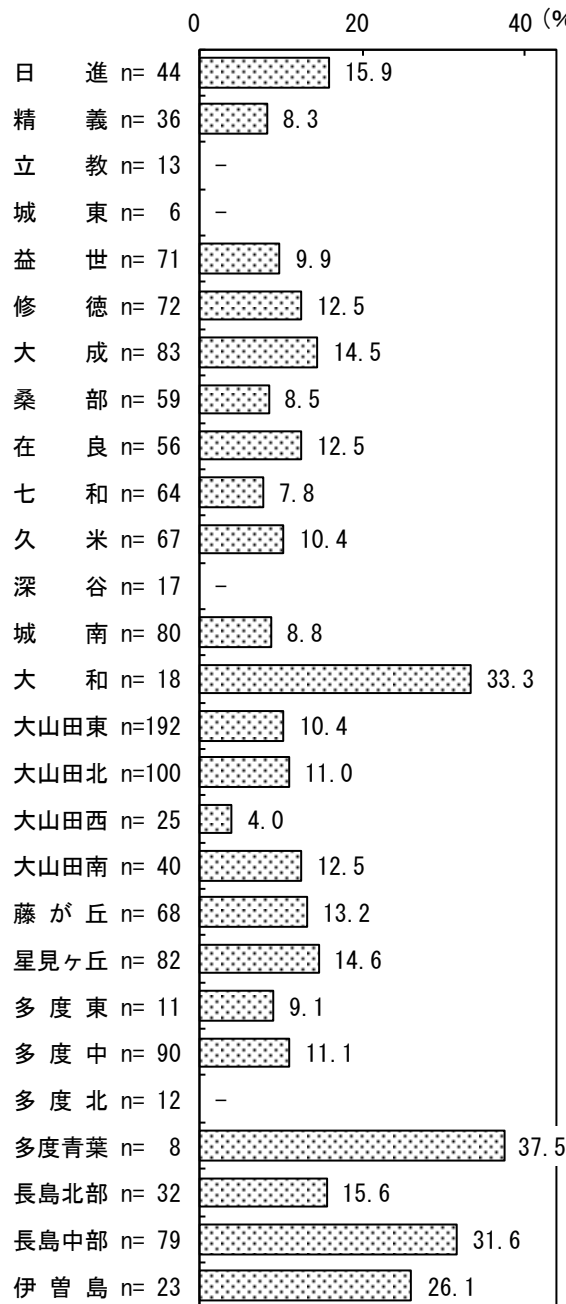
母親の就労状況別にみると、当然のことながら、フルタイムの「利用している」が高く、30%を超えています。

図表 2-29 放課後児童クラブの利用状況

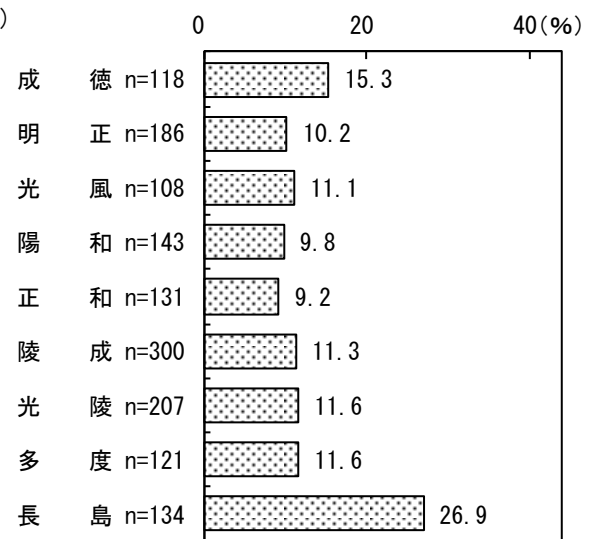


図表２－30 放課後児童クラブの校区・ブロック別利用率（「利用している」の割合）

<小学校区別>



<中学校ブロック>

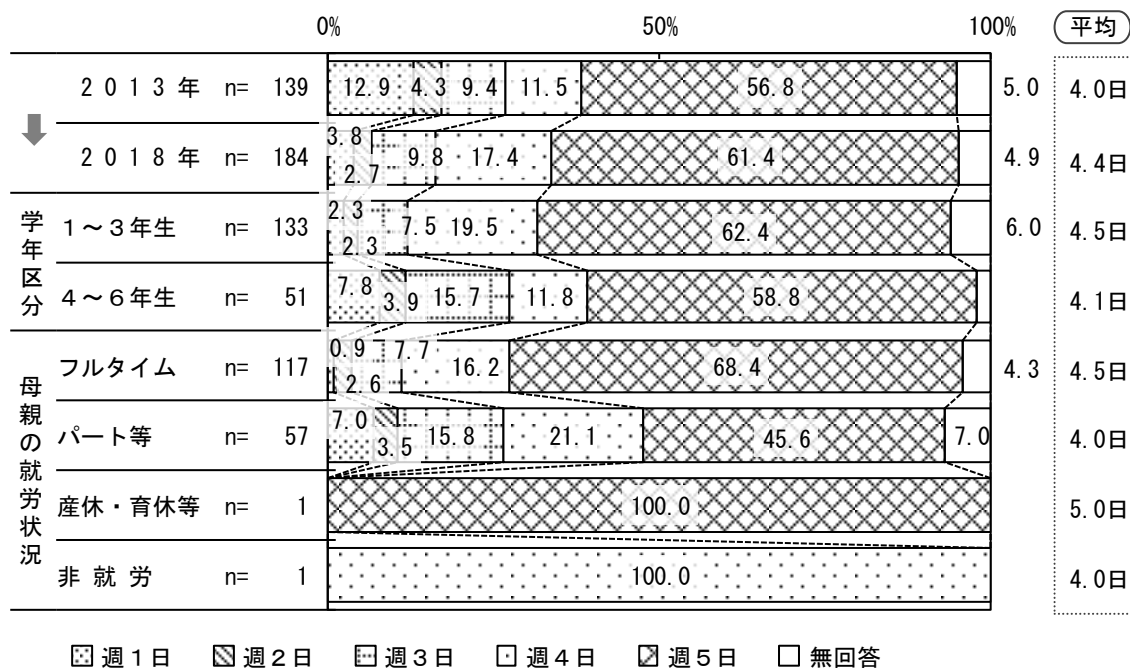


② 利用日数 [Q23-1]

放課後児童クラブを「利用している」と回答した184人を対象に、利用日数をたずねたところ、「週5日」が61.4%を占めており、1週間あたりの平均利用日数は4.4日です。

2013年の調査結果との比較では、1週間あたりの平均利用日数が0.4日増えています。

図表2-31 放課後児童クラブの利用日数

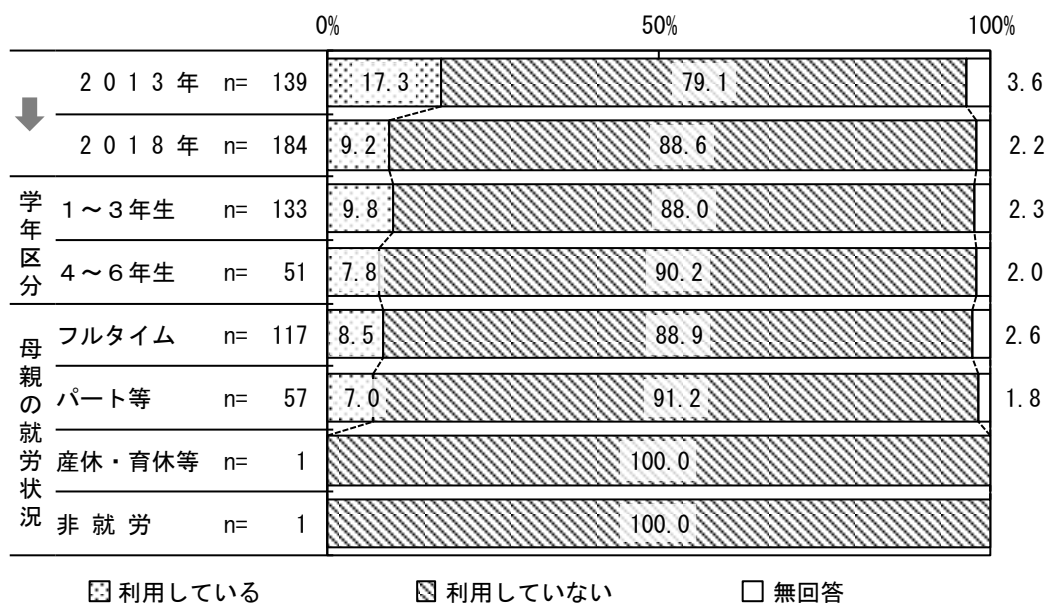


③土曜日・日曜日の利用状況 [Q23-2]

放課後児童クラブを「利用している」と回答した184人を対象に、土曜日・日曜日の利用についてたずねたところ、「利用している」が9.2%でした。

2013年の調査結果との比較では、「利用している」が低下しています。

図表2-32 土・日曜日の放課後児童クラブの利用状況



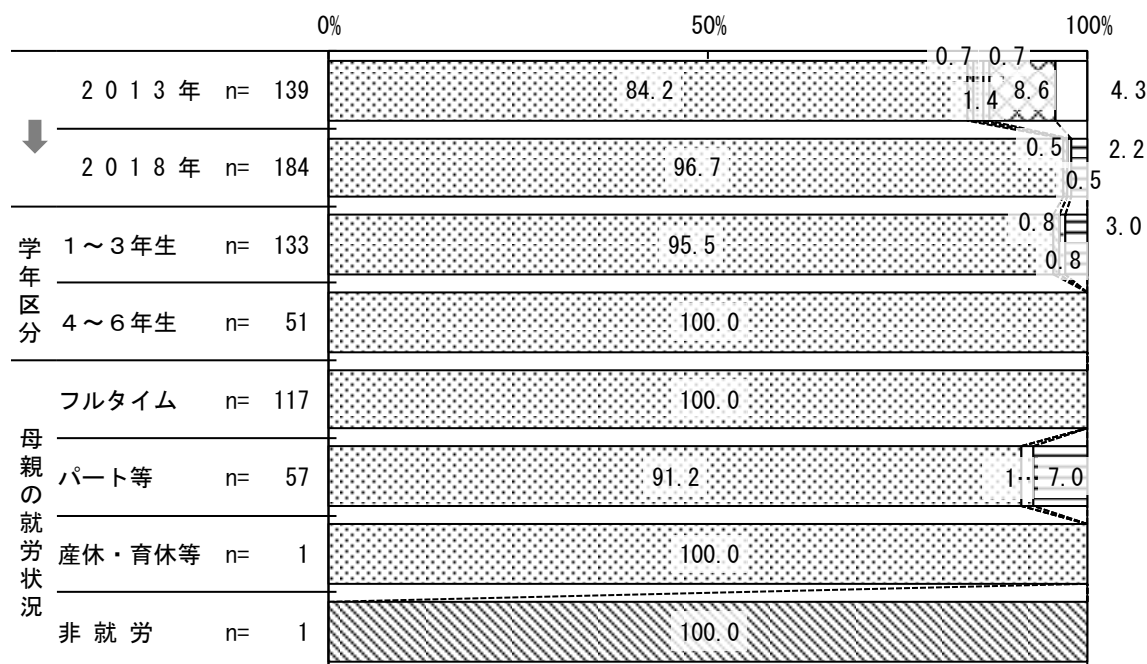
④ 放課後児童クラブを利用している主な理由〔Q23-3〕

放課後児童クラブを「利用している」と回答した184人を対象に、主な利用理由をたずねたところ、「現在仕事をしている」が96.7%を占めています。

2013年の調査結果との比較では、「現在仕事をしている」が12.5ポイント上昇しています。

「その他」として、「ボランティアをしているため」などの記載がありました。

図表 2-33 放課後児童クラブを利用している主な理由



- ☒ 現在仕事をしている
- ☐ 家族・親族などを介護しなければならない
- ☒ 学生である
- ☐ 無回答
- ☒ 仕事をする予定がある／求職中である
- ☐ 病気や障害がある
- ☐ その他

(3) 放課後児童クラブの未利用者の状況

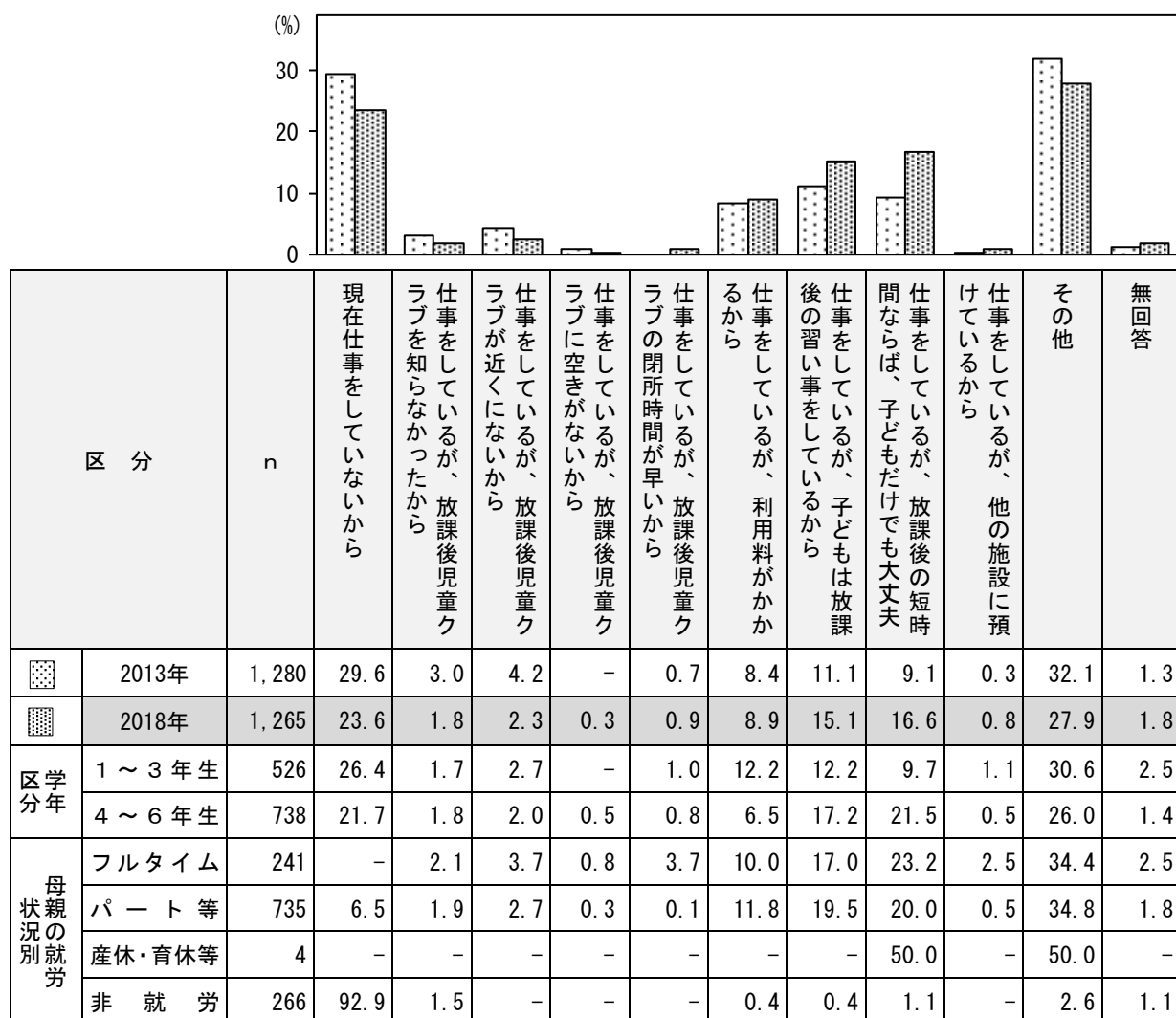
① 放課後児童クラブを利用していない理由〔Q24-1〕

放課後児童クラブを「利用していない」と回答した1,265人を対象に、利用していない理由をたずねたところ、「その他」が27.9%と最も高く、次いで「現在仕事をしていない」が26.6%となっています。

2013年の調査結果との比較では、「現在仕事をしていない」等が低下している一方、「仕事をしているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思うから」「仕事をしているが、子どもは放課後の習い事をしているから」等が上昇しています。

「その他」として、「仕事をしているが、子どもの帰宅時間には家にいる」「仕事をしているが、祖父母等がみていてくれる」「家で仕事をしているので預ける必要がない」などの記載がありました。

図表 2-34 放課後児童クラブを利用している主な理由（単数回答）単位：nは人、他は%



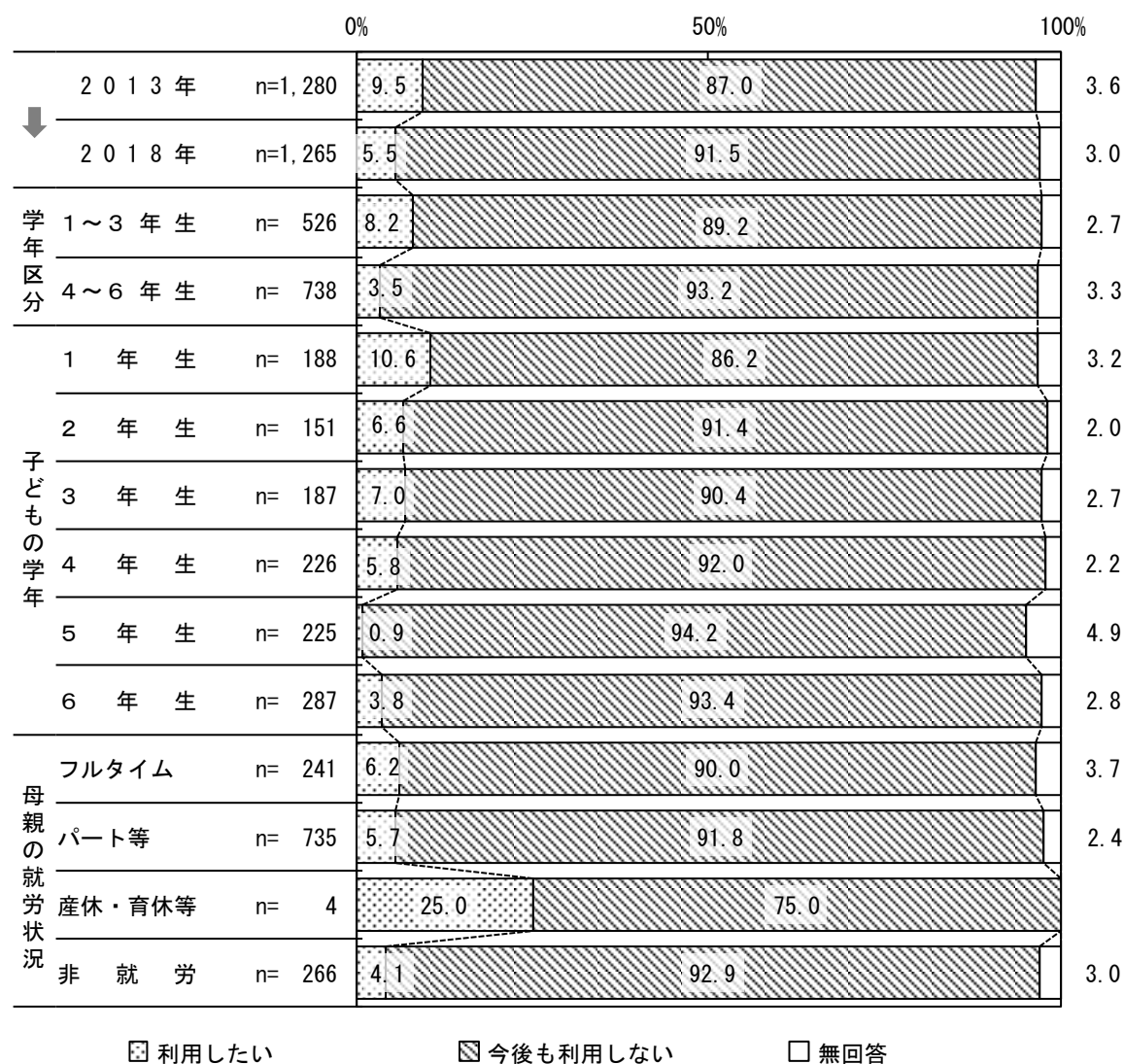
② 今後の利用意向 [Q24-2]

放課後児童クラブを「利用していない」と回答した1,265人を対象に、今後、利用したいかをたずねたところ、「利用したい」は5.5%です。

2013年の調査結果との比較では、「利用したい」が4ポイント低下しています。

子どもの学年別にみると、1年生では「利用したい」が10%を超えていますが、2年生では6.6%となります。

図表 2-35 放課後児童クラブ未利用者の利用意向

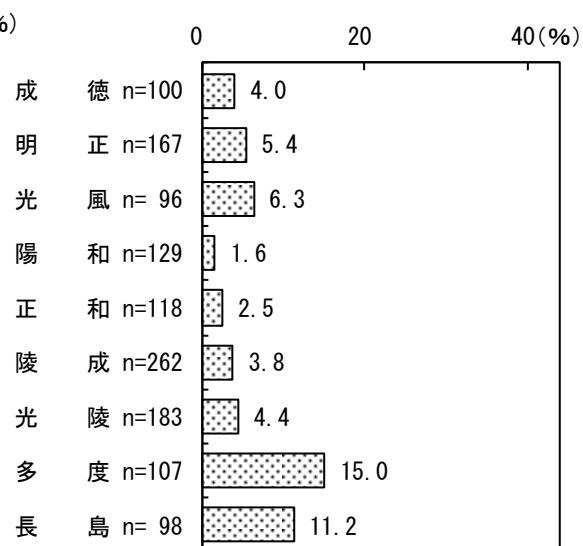


図表 2-36 放課後児童クラブ未利用者の校区・ブロック別利用意向（「利用したい」の割合）

①小学校区別



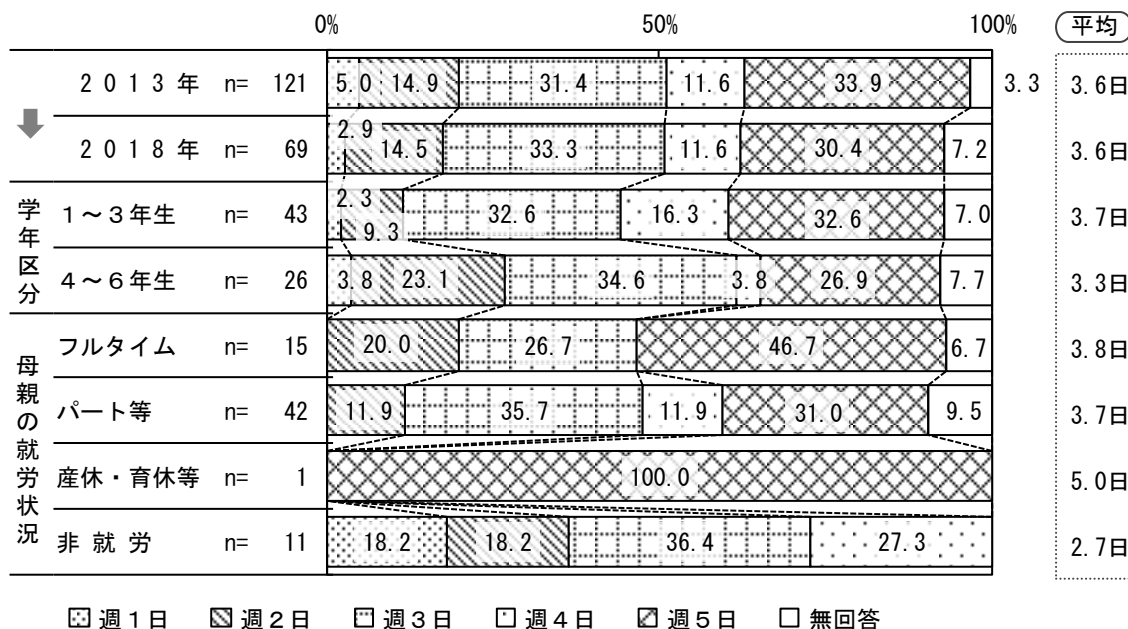
②中学校ブロック



② 利用希望日数 [Q24-3]

放課後児童クラブを「利用したい」と回答した69人を対象に、利用希望日数をたずねると、「週3日」が33.3%と最も高く、1週間あたりの利用希望平均日数は3.6日です。

図表 2-37 放課後児童クラブの利用希望日数

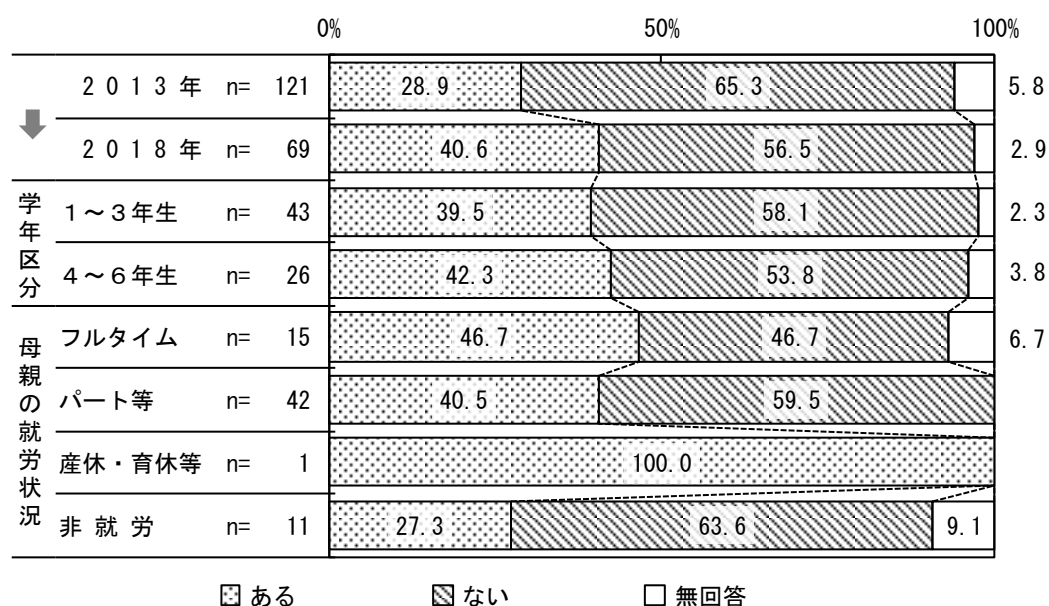


③ 土曜日・日曜日の利用意向 [Q24-4]

放課後児童クラブを「利用したい」と回答した69人を対象に、土曜日・日曜日の利用意向についてたずねたところ、利用意向が「ある」は40.6%です。

2013年の調査結果との比較では、「ある」が10ポイント以上上昇しています。

図表 2-38 土・日曜日の放課後児童クラブの利用意向

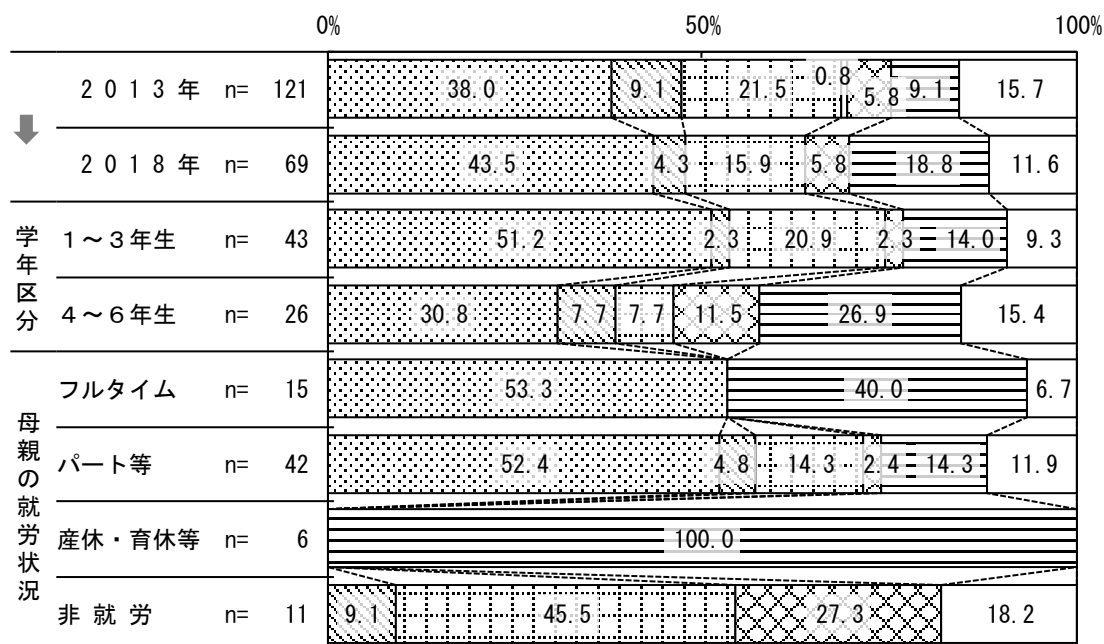


④ 放課後児童クラブを利用したい理由〔Q24-5〕

放課後児童クラブを「利用したい」と回答した69人を対象に、利用したい理由をたずねたところ、「現在仕事をしている」が43.5%と最も高く、次いで「その他」が18.8%、「そのうち仕事をしたいと考えている」が15.9%などとなっています。

「その他」として、「今の時間より長く働きたいから」「自分の仕事で研修に行きたい」「異なる学年の子どもとの交流」などの記載がありました。

図表 2-39 放課後児童クラブを利用したい理由



■ 現在仕事をしている

■ 仕事をする予定がある／求職中である

■ そのうち仕事をしたいと考えている

□ 病気や障がいがある

■ 仕事はしていないが、子どもの教育などのために預けたい

■ その他

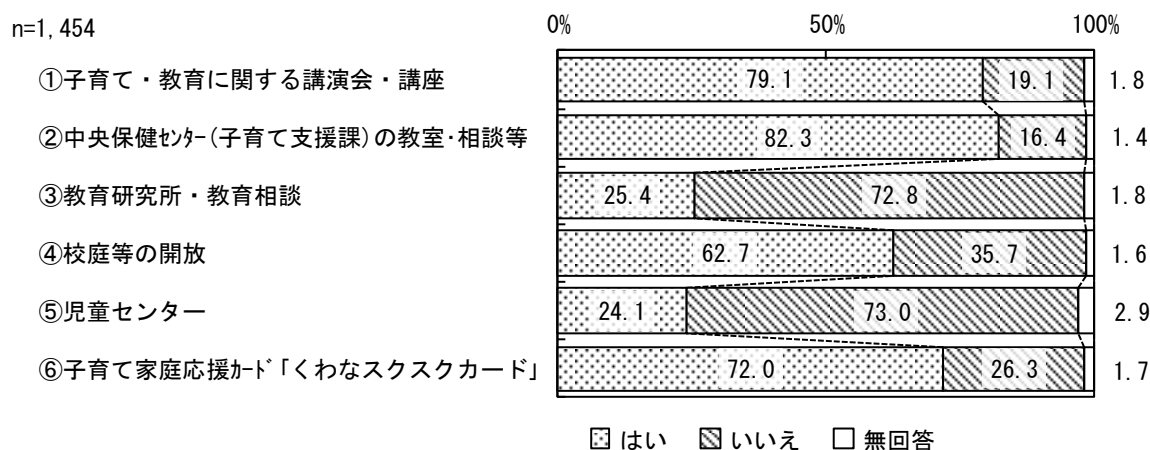
□ 無回答

5 子育て支援事業

(1) 事業の認知度 [Q25]

本市が実施している小学生を対象とした子育て支援事業の認知度は、〈中央保健センター(子育て支援課)の情報・相談サービス〉が82.3%と最も高く、次いで〈子育て・教育に関する講演会・講座〉が79.1%、〈子育て家庭応援カード「くわなスクスクカード」〉が72.0%となっています。

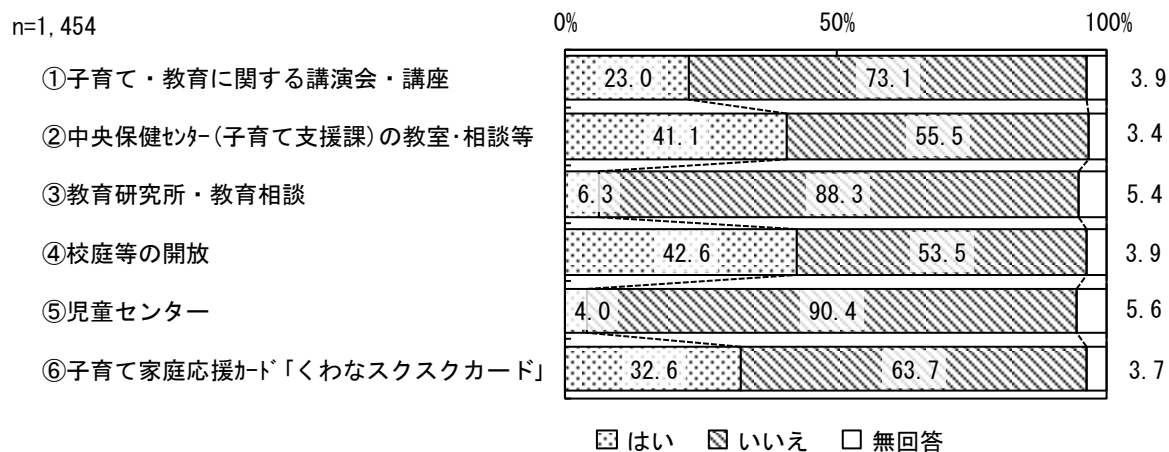
図表2-40 認知度（「知っている」）



(2) 事業の利用経験 [Q25]

本市が実施している小学生を対象とした子育て支援事業の利用経験は、〈校庭等の開放〉及び〈中央保健センター(子育て支援課)の情報・相談サービス〉が40%を超える高い率となっています。認知度に比べて全般的に低く、認知度が79.1%で2番目に高かった〈子育て・教育に関する講演会・講座〉は23.0%となっています。

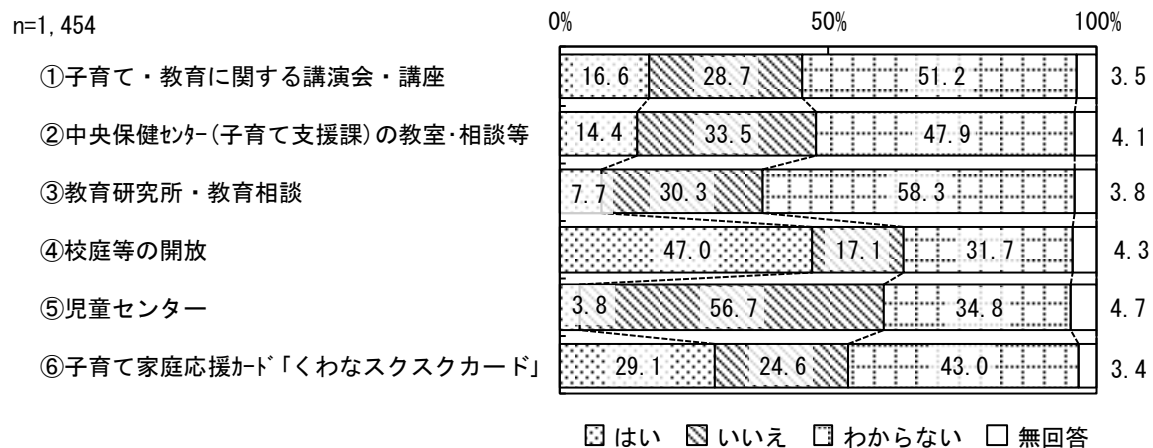
図表2-41 利用経験（「これまでに利用したことがある」）



(3) 事業の利用意向 [Q25]

本市が実施している小学生を対象とした子育て支援事業の利用意向は、〈校庭等の開放〉が47.0%と最も高くなっています。②利用経験と比較すると、〈校庭等の開放〉及び〈教育研究所・教育相談〉のみが上昇しています。

図表 2-42 利用意向（「今後利用したい」）



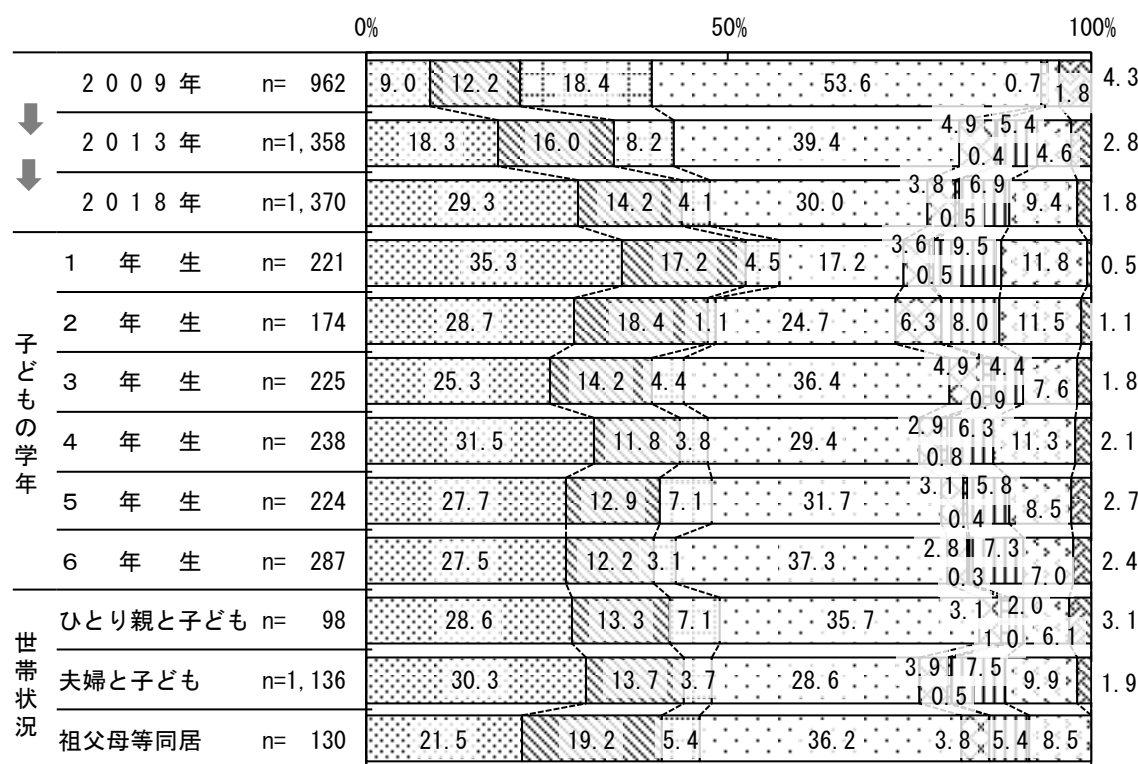
6 子どもが病気等の時の対応

(1) 子どもが休日・夜間に病気になった時の対応〔Q26〕

子どもが休日・夜間に病気になった時の対応としては、「桑名市応急診療所など市内の救急医療機関に連れて行った」が30.0%と最も高く、次いで「家庭用の医学書やインターネットで対処法などを調べて様子をみた」が29.3%、「自分や配偶者の親など身近な人に対処法などを教えてもらい様子をみた」が14.2%などとなっています。

過去の調査結果との比較では、「家庭用の医学書やインターネットで対処法などを調べて様子をみた」が大幅に上昇する一方、「桑名市応急診療所など市内の救急医療機関に連れて行った」が低下しています。世帯状況別にみると、祖父母等同居では「自分や配偶者の親など身近な人に対処法などを教えてもらい様子をみた」が19.2%と比較的高くなっています。

図表2-43 子どもが休日・夜間に病気になった時の対応



- 家庭用の医学書やインターネットで対処法などを調べて様子をみた
- 親など身近な人に対処法などを教えてもらい様子をみた
- かかりつけ医など医療機関に対処法などを問い合わせた
- 桑名市応急診療所など市内の救急医療機関に連れて行った
- 市外の救急医療機関に連れて行った
- 救急車を呼んだ
- 「くわな健康・医療相談ダイヤル24」に電話した
- 「みえ子ども医療ダイヤル」に電話した
- その他

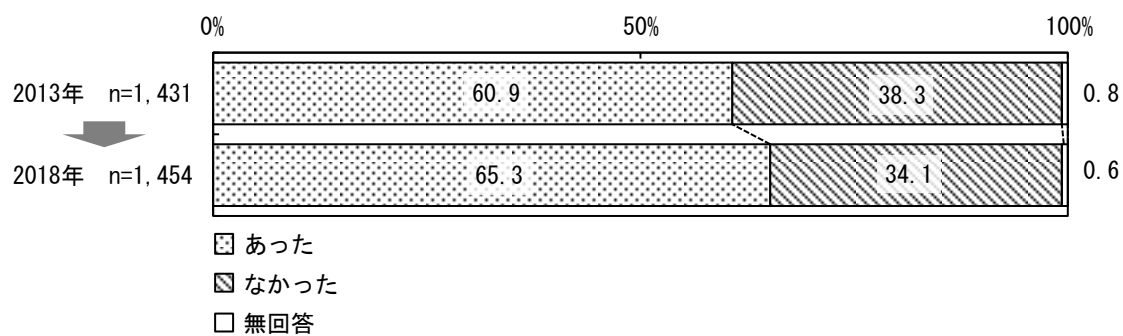
注：「今まで、子どもが休日や夜間に病気になったことがない」及び無回答を除く。また、2008年の選択肢には「市外の救急医療機関に連れて行った」及び「「くわな健康・医療相談ダイヤル24」に電話した」はありません。

(2) 子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無 [Q27]

この1年間に、学校を休まなければならなかったことがあるかをたずねたところ、「あった」が65.3%、「なかった」が34.1%となっています。

2013年の調査結果との比較では、「あった」が4.4ポイント上昇しています。

図表2-44 子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無



(3) 学校を休んだ時の対処法 [Q28]

子どもが病気等で学校を休んだ時の対処法については、「母親が休んだ」が66.5%と突出して高く、次いで「親族・知人に預けた（同居者を含む）」が21.7%、「仕事をしていない保護者がみた」が21.4%、「父親が休んだ」が10.4%などの順となっています。

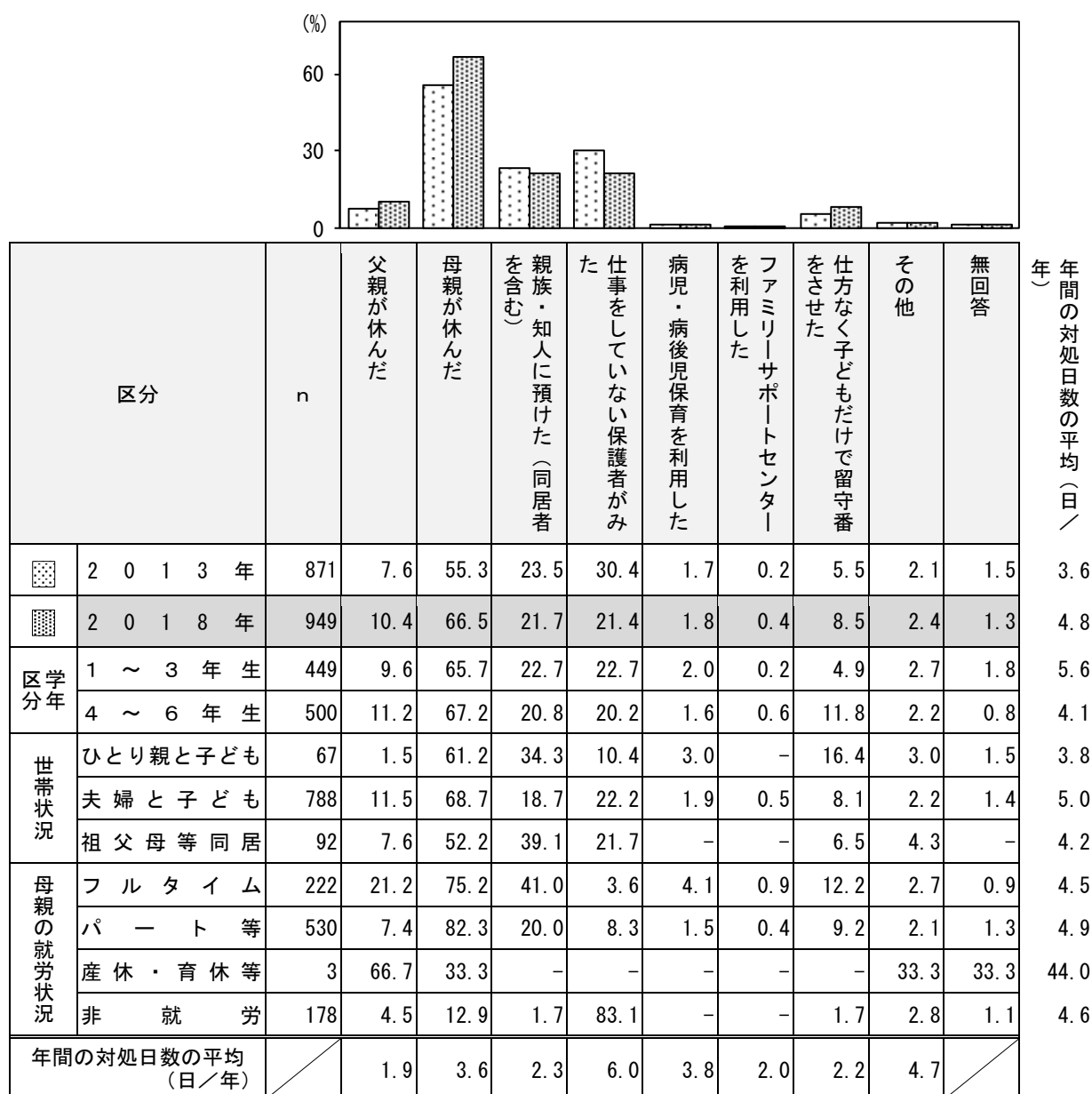
2013年の調査結果との比較では、「母親が休んだ」が10ポイント以上上昇しています。

世帯状況別にみると、ひとり親と子どもの同居世帯及び祖父母等同居では「親族・知人に預けた（同居者を含む）」が30%台と比較的高くなっています。

年間の対処が必要だった日数の平均は4.8日で、2013年の調査結果に比べ1.2日増加しています。

図表2-45 子どもが病気等で学校を休まなければならなかった時の対処法（複数回答）

単位：nは人、他は%

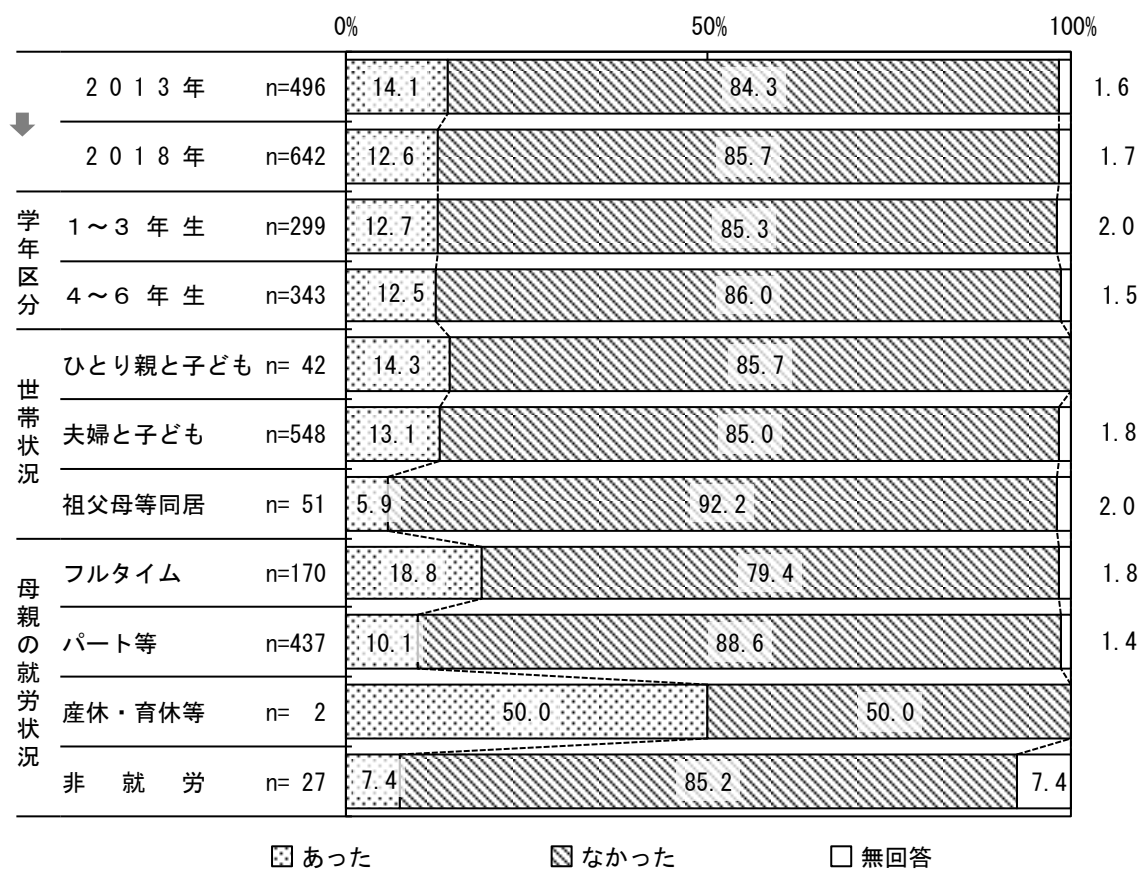


(4) 病児・病後児保育施設等の利用〔Q29〕

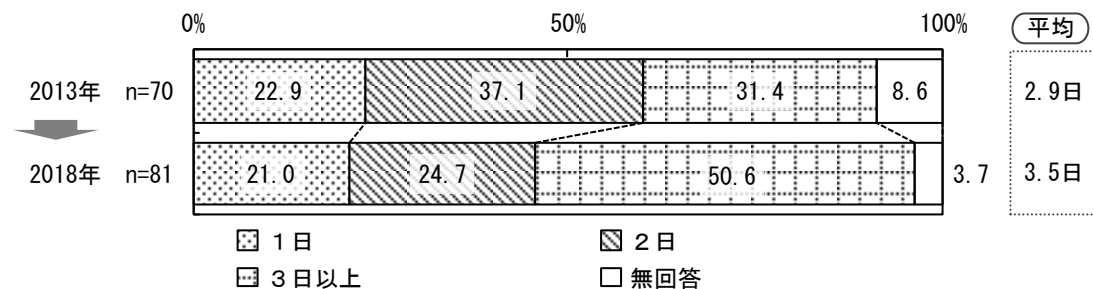
子どもが学校を休んだ時の対処法として、「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した642人の病児・病後児保育施設等の利用意向（病児・病後児のための保育施設を利用したいと思ったことが「あった」）は12.6%で、2013年の調査結果に比べ1.5ポイント低下しています（図表2-46）。

病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数は、「3日以上」が50.6%を占め、平均は3.5日となっています。2013年の調査結果に比べ0.6日増加しています（図表2-47）。

図表2-46 病児・病後児保育施設等の利用意向



図表2-47 病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数



7 仕事と子育ての両立

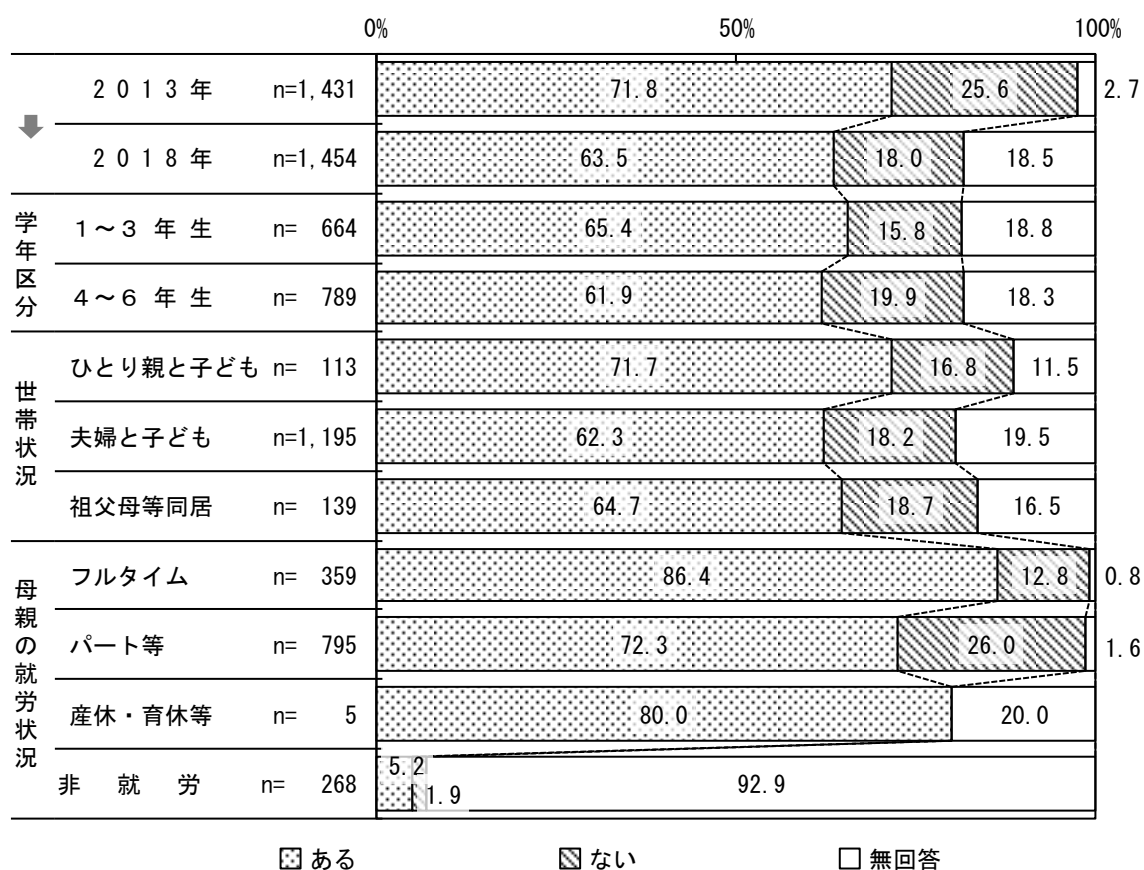
(1) 仕事と子育ての両立が難しいと感じたことの有無 [Q30]

仕事と子育てを両立させる上で難しいと感じたことの有無については、63.5%が「ある」と回答しています。

2013年の調査結果との比較では、「ある」が8.3ポイント低下しています。

世帯状況別にみると、ひとり親と子どもの世帯では「ある」が他の世帯より高くなっています。また、母親の就労状況別にみると、フルタイムと産休・育休等の「ある」が80%以上の高い率となっています。

図表2-48 仕事と子育てを両立させる上で難しいと感じたことの有無



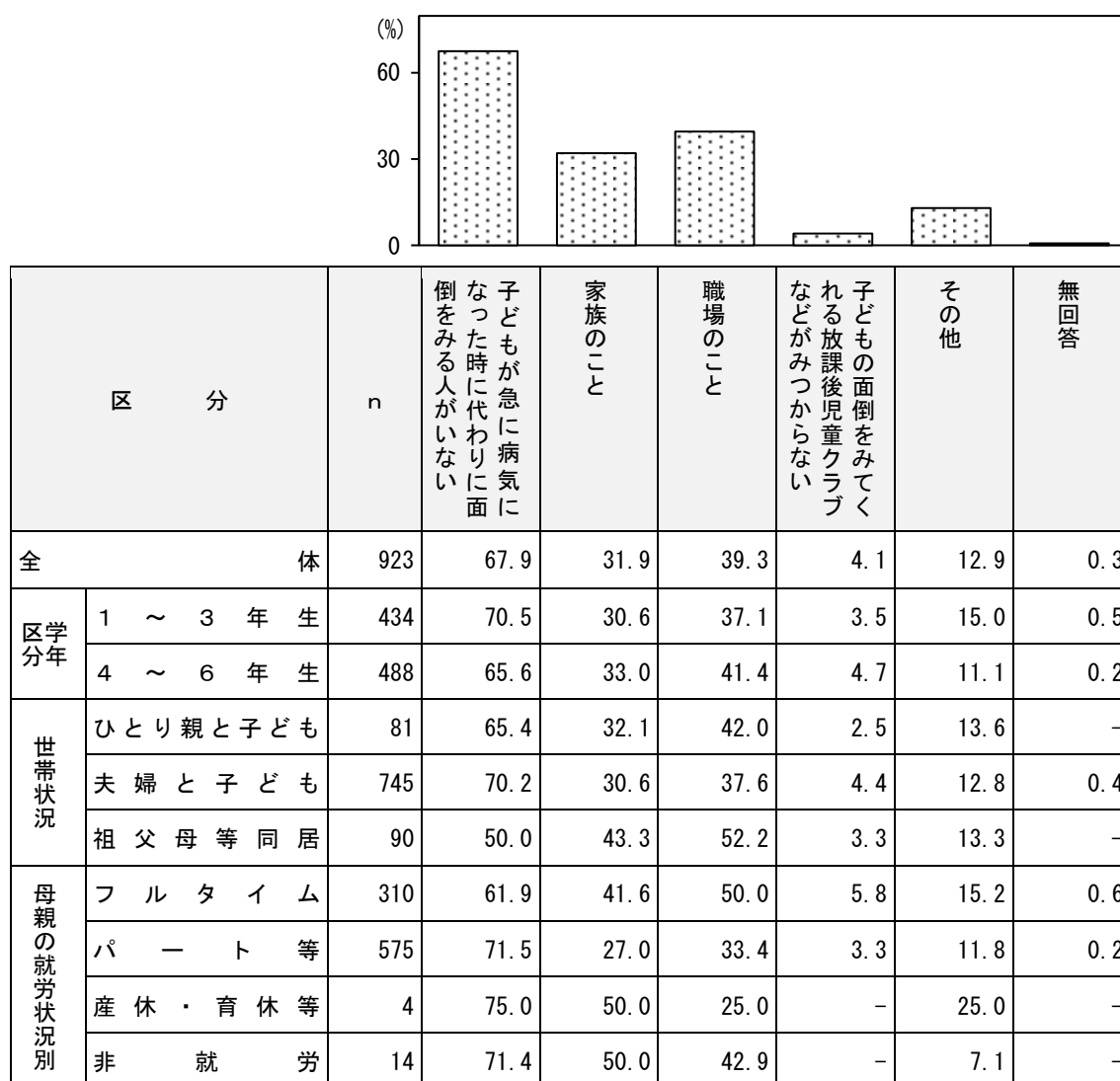
(2) 仕事と子育ての両立が難しいと感じたこと〔Q31〕

仕事と子育てを両立させる上で難しいと感じたことが「ある」と回答した923人に、どんなことで感じたかをたずねたところ、「子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」が67.9%と最も高く、次いで「職場のこと」が39.3%、「家族のこと」が31.9%などとなっています。

世帯状況別にみると、祖父母等同居の世帯では「職場のこと」が最も高くなっています。母親の就労状況別にみると、いずれも「子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」が最も高くなっていますが、フルタイムでは「職場のこと」が50.0%と比較的高くなっています。

「その他」として、「学校行事やPTA活動への参加が負担」「子どもと関わる時間が限られてしまう」「時間が足りない・家事が大変」「夏休みなど長期の休みに預けられるところがない」「習い事との調整等」「放課後児童クラブの運営参加の負担が大きい」などの記載がありました。

図表2-49 仕事と子育てを両立させる上で難しいと感じたこと(複数回答) 単位：nは人、他は%

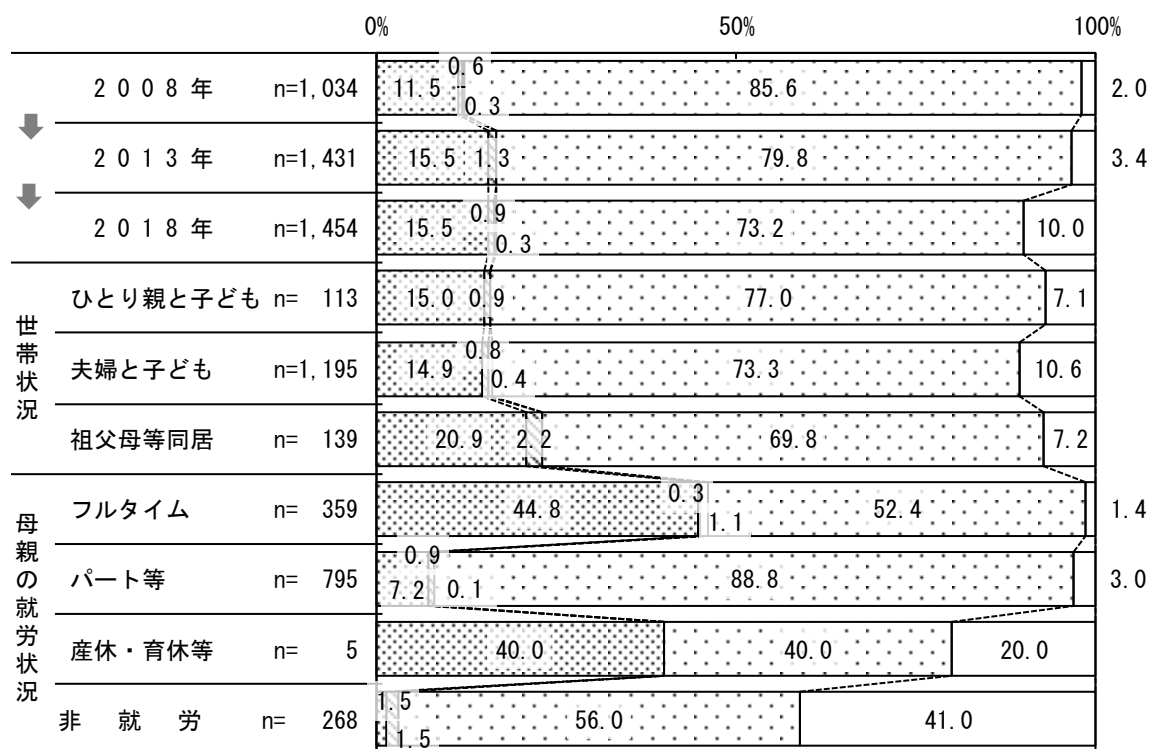


(3) 育児休業制度の利用状況 [Q32]

育児休業制度については、「利用しなかった」が73.2%を占めています。「母親が利用した」が15.5%、「父親が利用した」が0.9%、「母親と父親の両方が利用した」が0.3%となっており、これらの合計《利用した》は16.7%で、2013年の調査結果とほぼ同じです。

母親の就労状況別にみると、《利用した》はフルタイム及び産休・育休等で40%以上と高くなっています。

図表 2-50 育児休業制度の利用状況



- ☒ 母親が利用した
- ☒ 父親が利用した
- ☐ 母親と父親の両方が利用した
- ☐ 利用しなかった
- ☐ 無回答

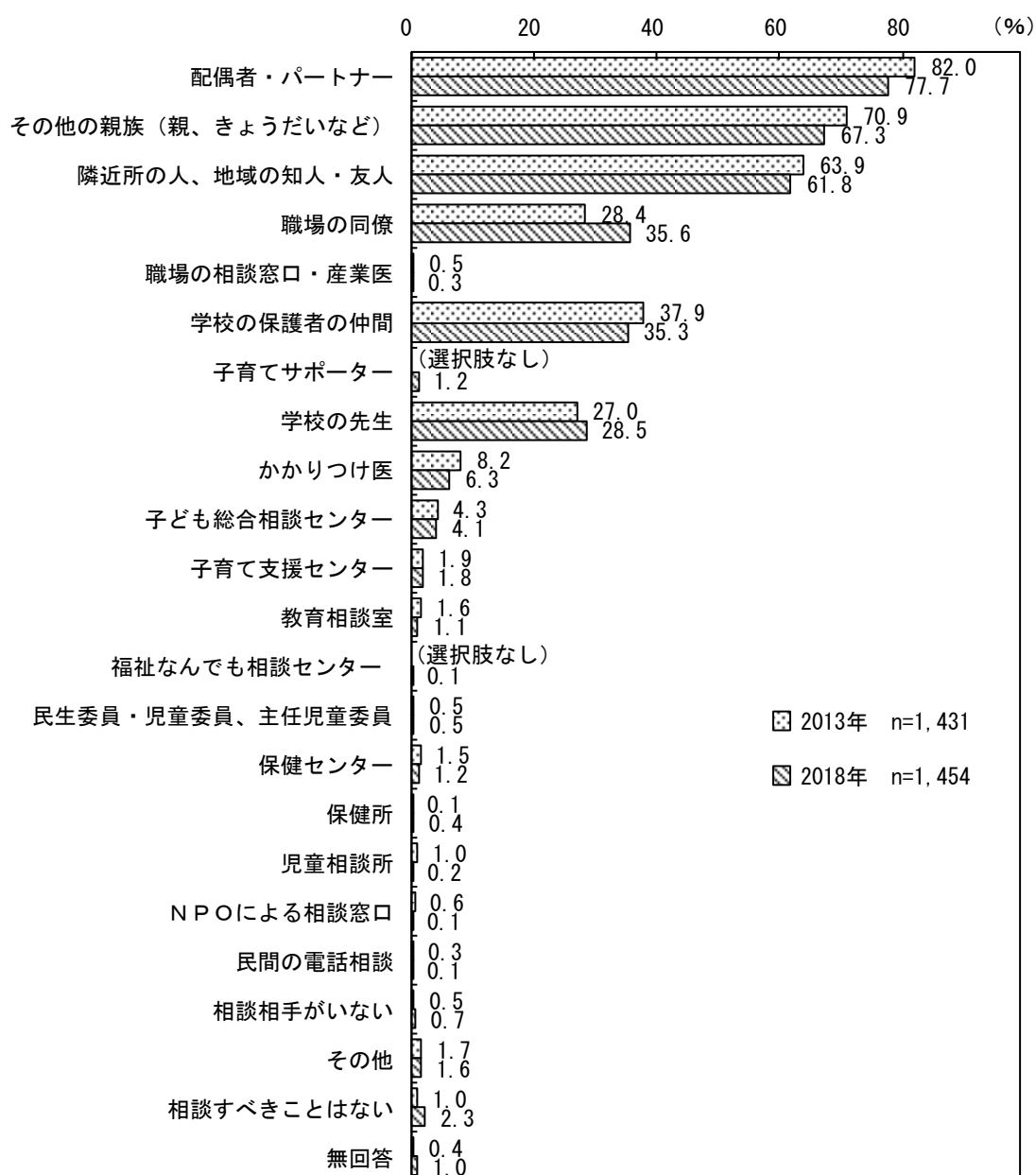
8 相談・情報提供

(1) 子育てに関する悩みや不安の相談相手〔Q33〕

身近な地域における子育てに関する悩みや不安の相談相手としては、「配偶者・パートナー」が77.7%と最も高く、次いで「その他の親族（親・きょうだいなど）」が67.3%、「隣近所の人、知人・友人」が61.8%、「職場の同僚」が35.6%、「学校の保護者の仲間」が35.3%、「学校の先生」が28.5%などとなっています。「その他」として「インターネット・SNS」「学童の指導員」「スクールカウンセラー」などの記載がありました。

2013年の調査結果との比較では、全般的に低下している中、「職場の同僚」及び「学校の先生」が上昇しています。

図表2-51 子育てに関する悩みや不安の相談相手（過去の調査結果との比較／複数回答）



図表 2-52 子育てに関する悩みや不安の相談相手（複数回答）

単位：nは人、他は%

区 分	子どもの学年						母親の就労状況			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	フルタイム	パート等	産休・育休等	非就労
n	235	194	235	252	238	299	359	795	5	268
配偶者・パートナー	80.0	77.3	80.9	73.8	78.6	76.3	67.4	81.8	60.0	84.3
その他の親族（親、きょうだいなど）	70.2	63.4	69.4	65.1	67.6	67.6	66.3	69.2	60.0	63.8
隣近所の人、地域の知人・友人	66.0	58.2	58.3	61.5	63.4	62.2	49.9	67.0	40.0	65.7
職場の同僚	32.8	34.0	37.0	38.5	37.0	34.1	48.5	41.8	20.0	2.6
職場の相談窓口・産業医	0.4	-	-	-	0.4	1.0	0.6	0.3	-	0.4
学校の保護者の仲間	36.6	35.6	35.3	35.3	38.7	31.4	28.4	37.2	-	41.0
子育てサポーター	1.3	-	2.1	0.4	0.8	2.0	0.3	1.6	-	1.1
学校の先生	31.1	26.8	28.9	27.4	29.0	27.8	25.6	28.7	20.0	32.8
かかりつけ医	8.5	4.6	6.8	5.2	5.5	6.7	5.6	5.9	-	8.6
子ども総合相談センター	4.7	3.6	4.3	4.0	3.4	4.3	3.6	4.5	-	3.0
子育て支援センター	1.3	2.6	1.3	2.4	1.3	2.0	1.4	1.4	-	3.4
教育相談室	1.3	1.0	0.9	0.4	0.8	2.0	1.1	1.3	20.0	0.4
福祉なんでも相談センター	0.4	-	-	-	-	0.3	-	0.3	-	-
民生委員・児童委員、主任児童委員	0.4	0.5	0.9	-	0.4	0.7	-	0.5	-	1.1
中央保健センター（子育て支援課）	1.3	1.0	0.4	3.2	-	1.3	1.1	1.3	-	1.5
保健所	1.3	0.5	-	0.4	-	0.3	-	0.5	-	0.7
児童相談所	0.4	0.5	-	-	-	0.3	0.3	0.3	-	-
NPOによる相談窓口	-	-	0.4	-	-	-	-	0.1	-	-
民間の電話相談	-	-	-	0.4	-	0.3	0.3	0.1	-	-
相談相手がない	-	1.0	0.9	1.2	0.4	0.7	1.1	0.4	-	-
相談すべきことはない	-	2.1	1.3	1.6	2.1	2.3	1.9	1.1	20.0	1.5
その他	3.4	2.6	3.0	0.4	2.9	1.3	3.9	1.4	-	2.6
無回答	1.3	0.5	0.4	0.4	1.3	2.0	0.8	0.6	-	1.5

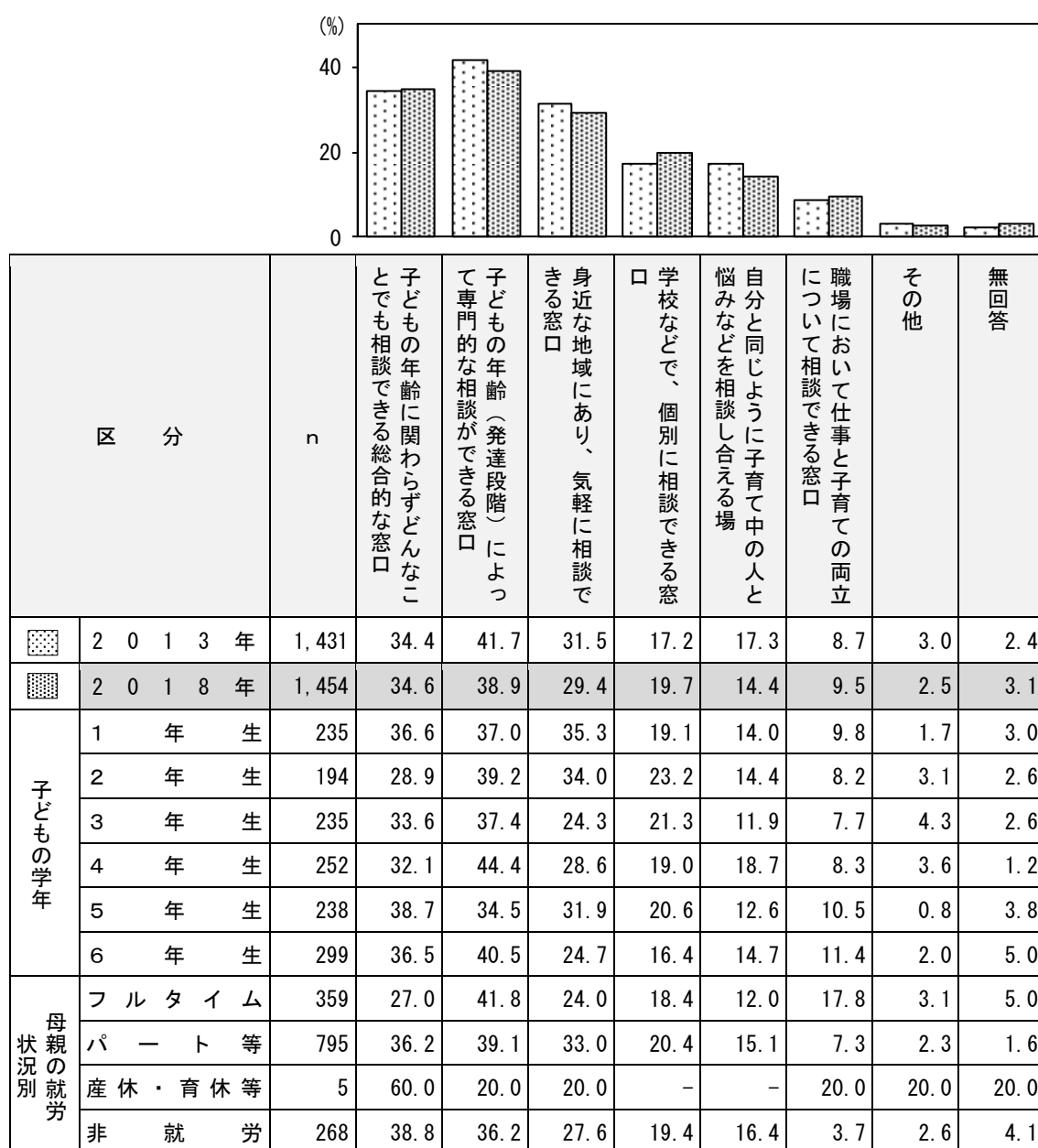
(2) 子育てに関する悩みや不安を解消するために求められる相談窓口 [Q34]

子育てに関する悩みや不安を解消するために求められる相談窓口としては、「子どもの年齢（発達段階）によって専門的な相談ができる窓口」が38.9%と最も高く、次いで「子どもの年齢に関わらずどんなことでも相談できる総合的な窓口」が34.6%、「身近な地域にあり、気軽に相談できる窓口」が29.4%などとなっています。

「その他」として、「インターネットでの対応窓口」「平日の夜や休日に利用できる相談窓口」「多胎児に対する理解がある相談窓口」「子育ての先輩に相談できる窓口」などの記載がありました。

図表 2-53 子育てに関する悩みや不安を解消するために求められる相談窓口（複数回答・2つまで）

単位：nは人、他は%



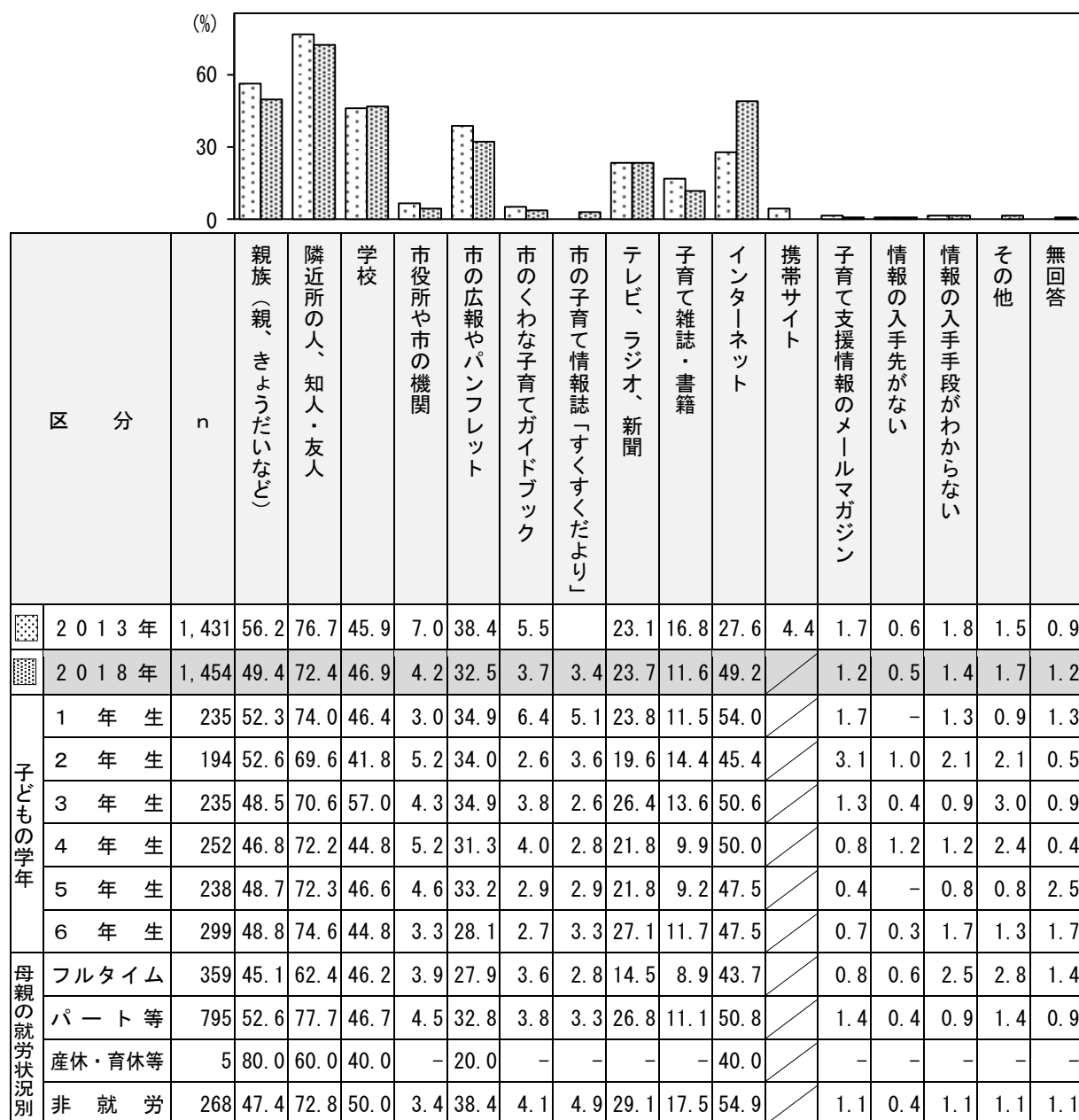
(3) 子育て情報の入手方法 [Q35]

子育てに関する情報の入手方法としては、「隣近所の人、知人・友人」が72.4%と最も高く、次いで「親族（親、きょうだいなど）」が49.4%、「インターネット」が49.2%、「学校」が46.9%などとなっています。

2013年の調査結果との比較では、「インターネット」が大幅に上昇しています。

子どもの学年別にみると、学年が低くなるにしたがい「親族（親、きょうだいなど）」及び「市の広報やパンフレット」が高くなる傾向にあります。

子育て情報の入手方法（複数回答）



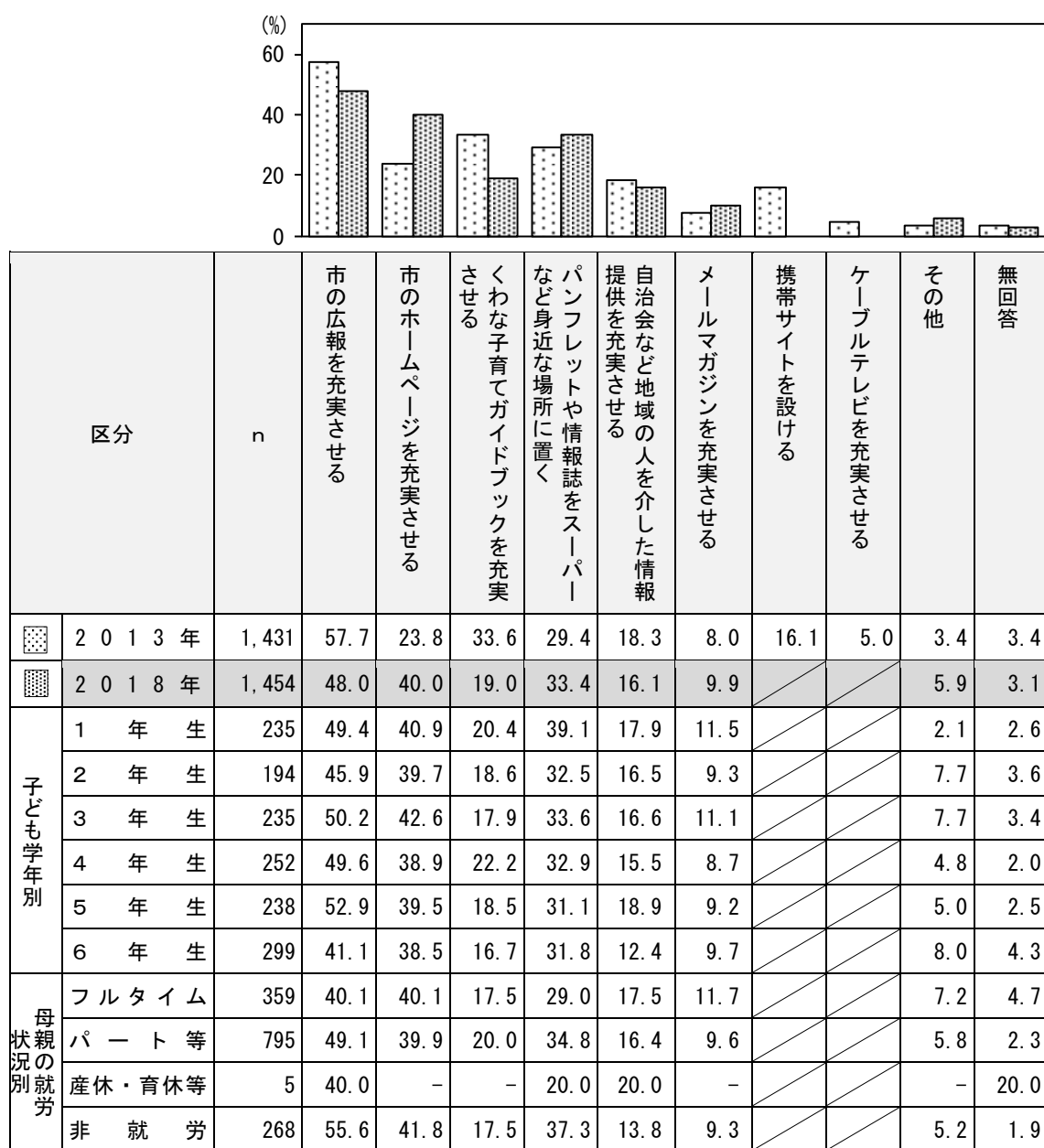
(4) 子育て情報の効果的な提供方法〔Q36〕

子育てに関する情報の効果的な提供方法としては、「市の広報を充実させる」が48.0%と最も高く、次いで「市のホームページを充実させる」が40.0%、「パンフレットや情報誌をスーパーなど身近な場所に置く」が33.4%などとなっています。

2013年の調査結果との比較では、「市のホームページを充実させる」が16.2ポイントと大幅に上昇している一方、「くわな子育てガイドブックを充実させる」が14.6ポイント低下しています。

「その他」として、「学校を通じた情報提供」「SNS」などの記載がありました。

図表 2-54 子育て情報の効果的な提供方法（複数回答）単位：nは人、他は%



9 子育てに対して感じていること

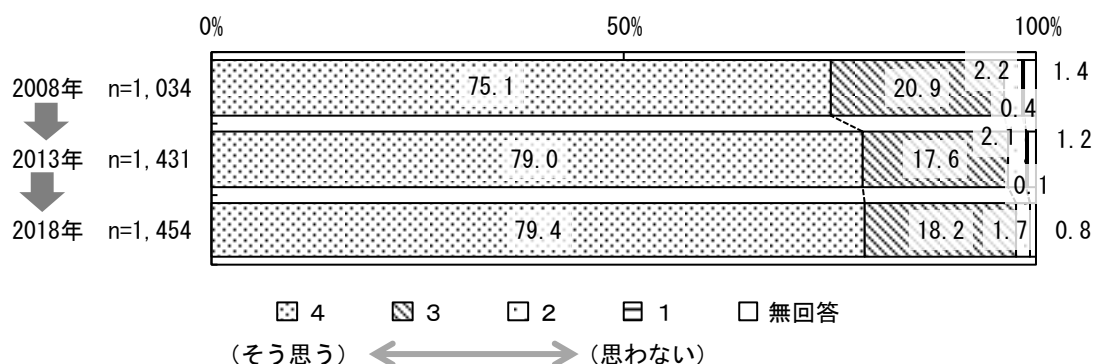
(1) 子育てに対して感じていること [Q39]

子育てに関する7つの項目について、「そう思う」を4点、「思わない」を1点とした場合、最もあてはまる点数をつけてもらった結果、就学前の子どもの保護者調査の結果と同様に、①～③の項目について「そう思う」（4点）が70%を超えており、小学生の保護者においても子どもの存在が自分の人生や生活に対してプラスに働いていると感じている人が多いことがわかります。

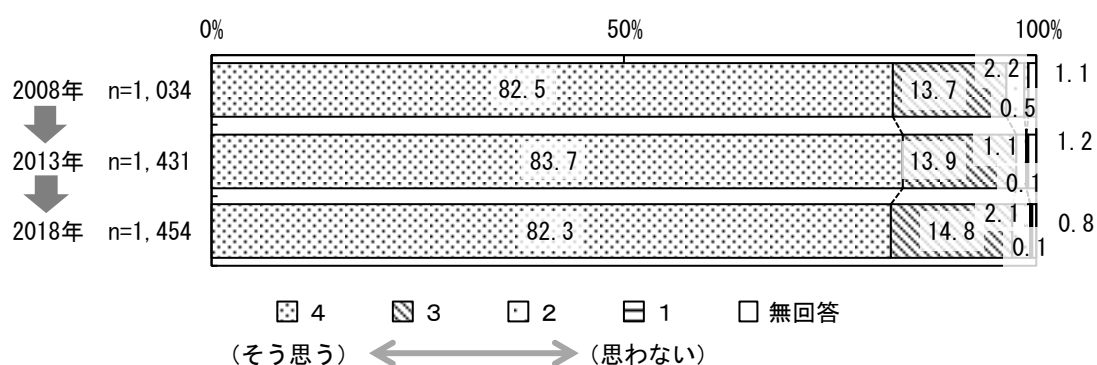
過去の調査結果との比較では、④（子育てに対して不安を感じる）の「そう思う」が回を追うごとに低下しています。

図表2-55 子育てに対して感じていること（過去の調査結果との比較）

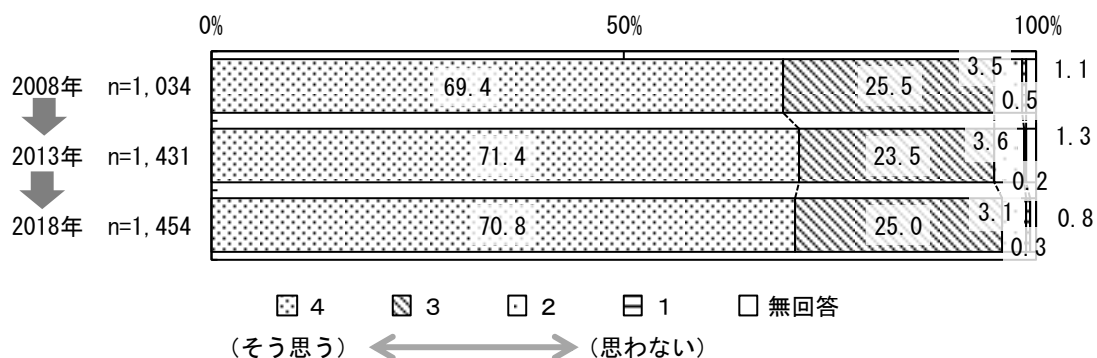
①子どもがいると生活が楽しく豊かになる



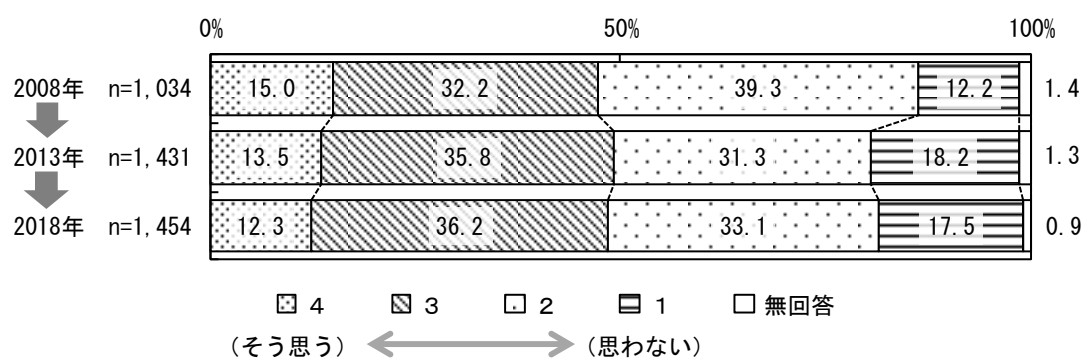
②子育てを通じて自分も成長すると思う



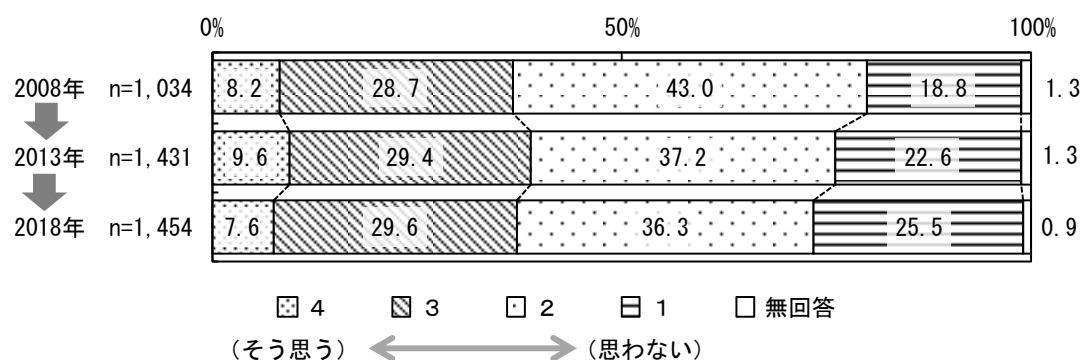
③子どもは心のやすらぎや生きがいを与えてくれると思う



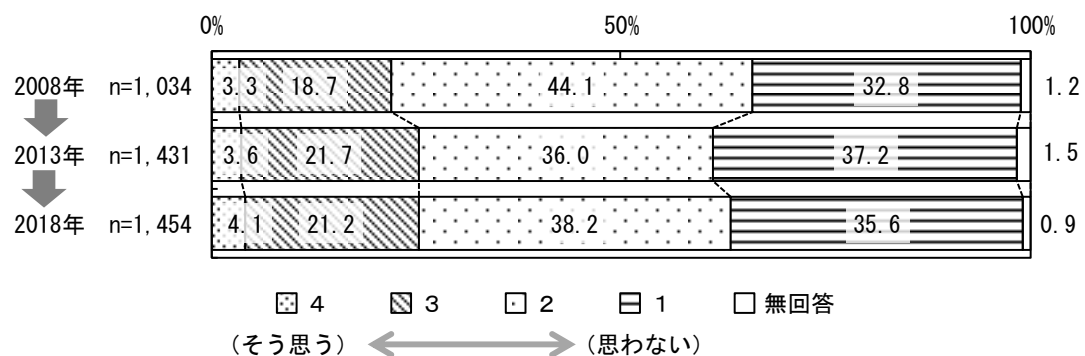
④子育てに対して不安を感じている



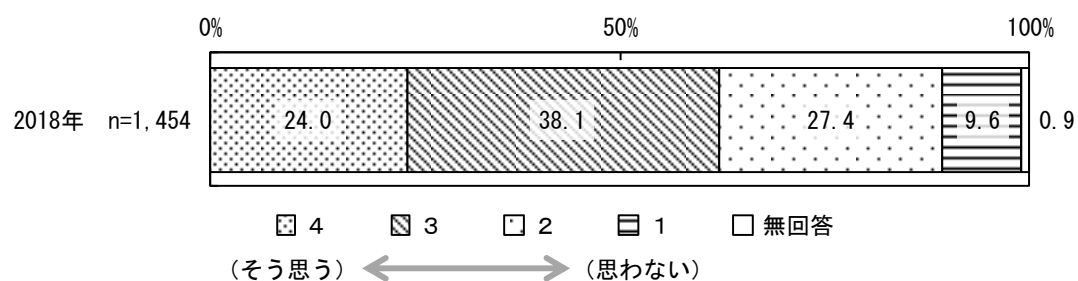
⑤仕事や自分のやりたいことができない



⑥子どもがいると生活や気持ちにゆとりがなくなる



⑦子どもに強く当たったり、強い口調で言ってしまう



(2) 子育てする上での不安や悩み〔Q38〕

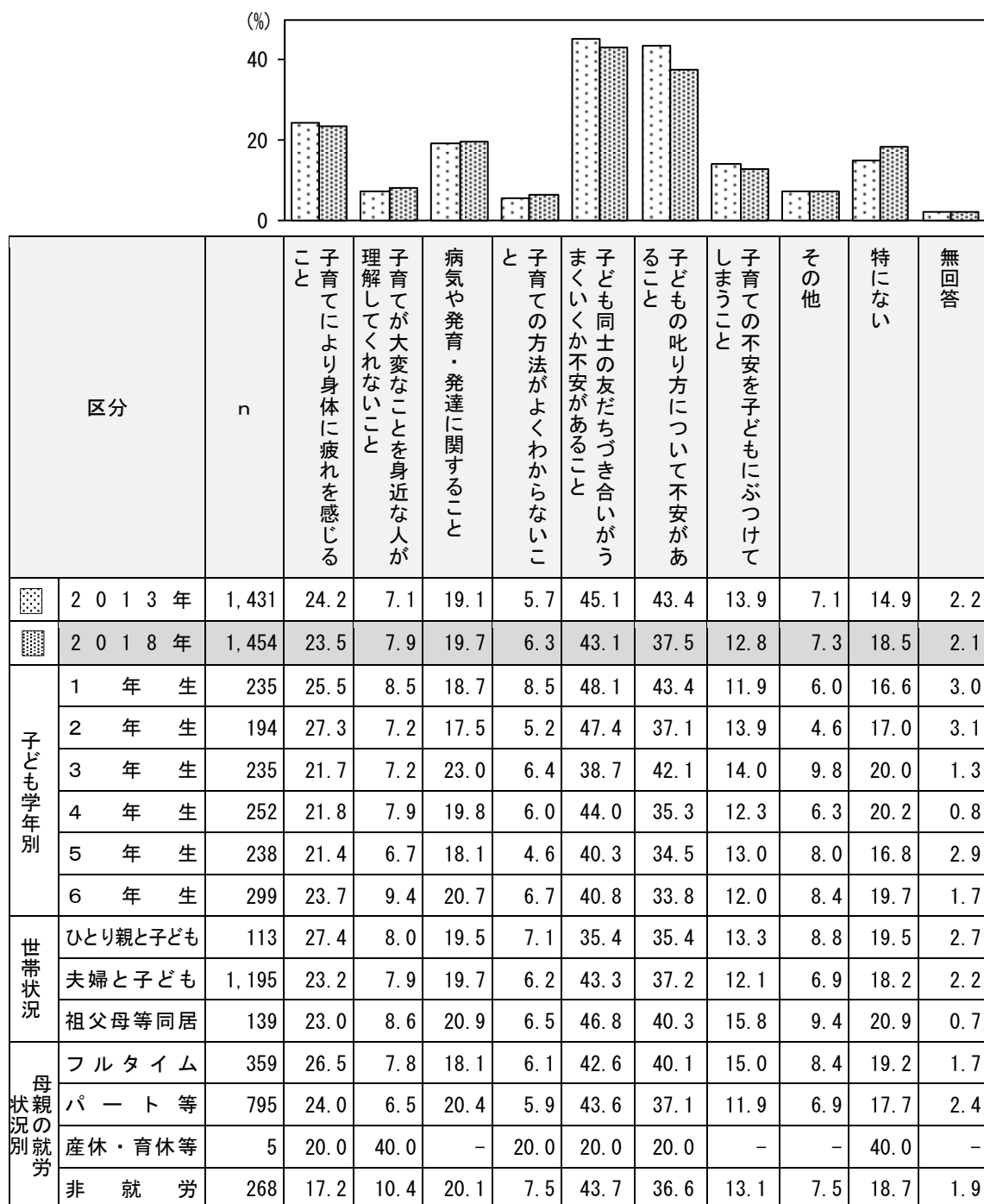
子育てをする上での不安や悩みについては、「子ども同士の友だちづき合いがうまくいか不安があること」が43.1%、「子どもの叱り方について不安があること」が37.5%と、この2項目が突出して高くなっています。

2013年の調査結果との比較では、「子どもの叱り方について不安があること」が5.9ポイント低下しています。

「その他」として、「教育費など経済的な不安」「勉強・学習」「子どもの将来」「しつけ」「親の関わり方」などの記載がありました。

図表2-56 子育てする上での不安や悩み（複数回答）

単位：nは人、他は%



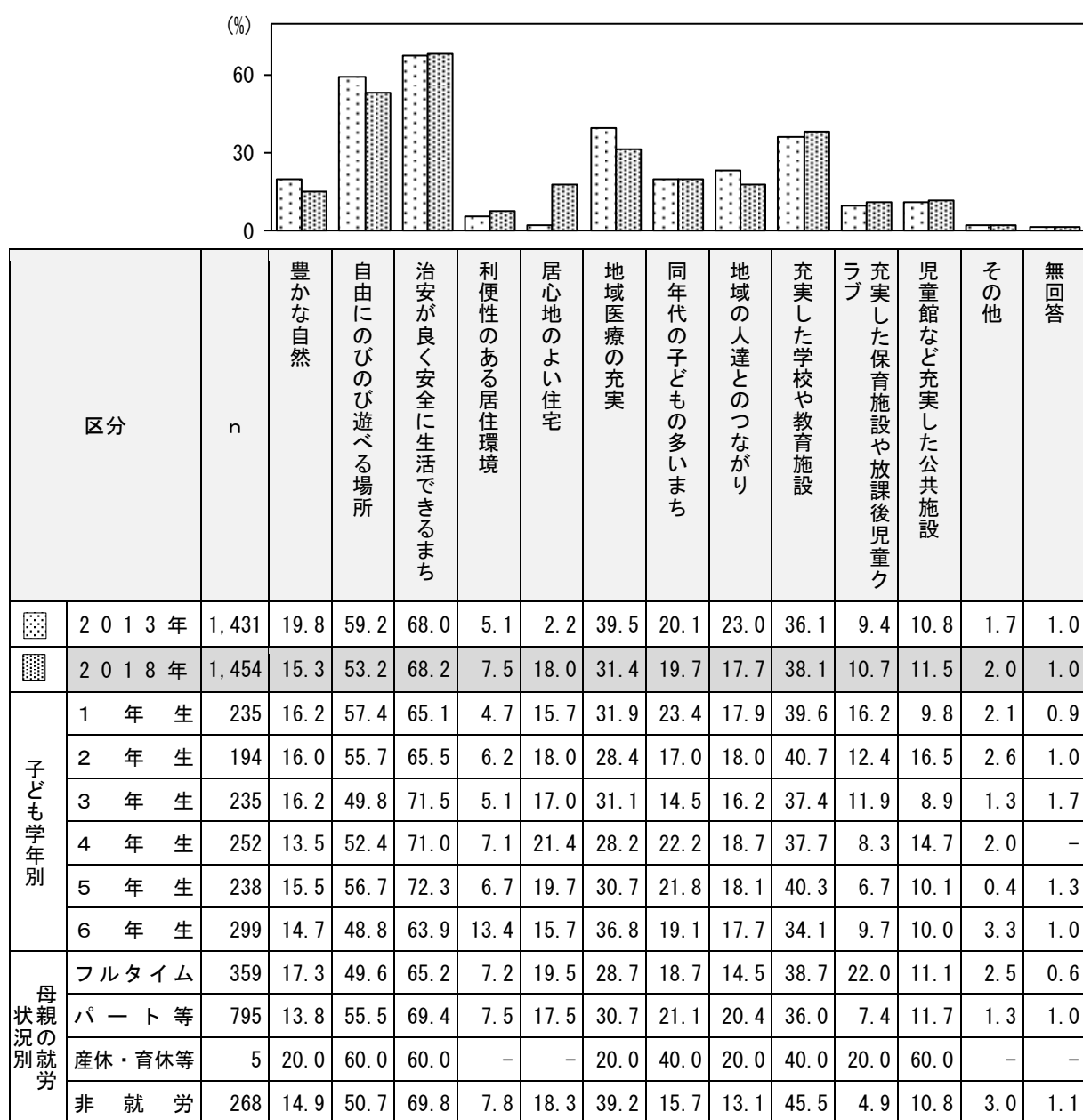
(3) 子どもを育てる環境として重要だと思うこと〔Q39〕

子ども育てる環境として重要だと思うことについては、「治安がよく安全に生活できるまち」が68.2%と最も高く、次いで「自由にのびのび遊べる場所」が53.2%、「充実した学校や教育施設」が38.1%、「地域医療の充実」が31.4%などとなっています。

2013年の調査結果との比較では、「地域医療の充実」「自由にのびのび遊べる場所」「地域の人達とのつながり」などが低下しています。

「その他」として「家庭・家庭環境」「経済的な支援」「親の心のゆとり」「障がいのある子どもに対する理解」「子育て中の人への心のケア」などの記載がありました。

図表 2-57 子どもを育てる環境として重要だと思うこと（複数回答・3つまで）単位：nは人、他は%



注：2013年の選択肢では「居心地のよい住宅」は「質のよい安価な住宅」

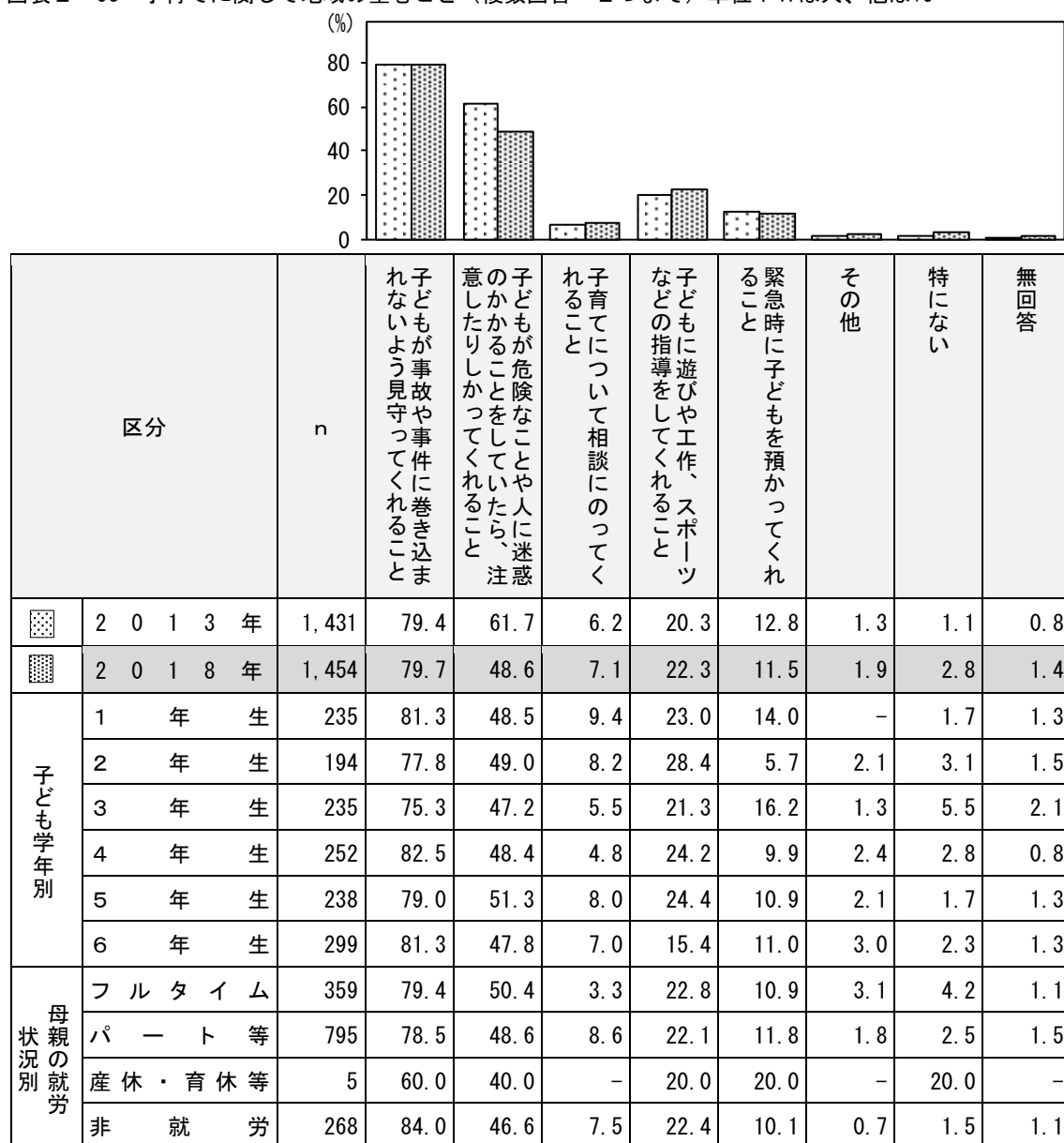
10 子育てと地域との関わり

(1) 子育てに関して地域に望むこと [Q40]

子育てに関して地域に望むことについては、「子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること」が79.7%と最も高く、次いで「子どもが危険なことや人に迷惑がかかることをしていたら、注意したりしかってくれること」が48.6%となっています。

「その他」として、「遊ぶ場所の提供」「安心・安全な子ども居場所」「多世代交流のできる地域活動」「救急医療・小児医療の充実」などの記載がありました。

図表 2-58 子育てに関して地域の望むこと（複数回答・2つまで）単位：nは人、他は%



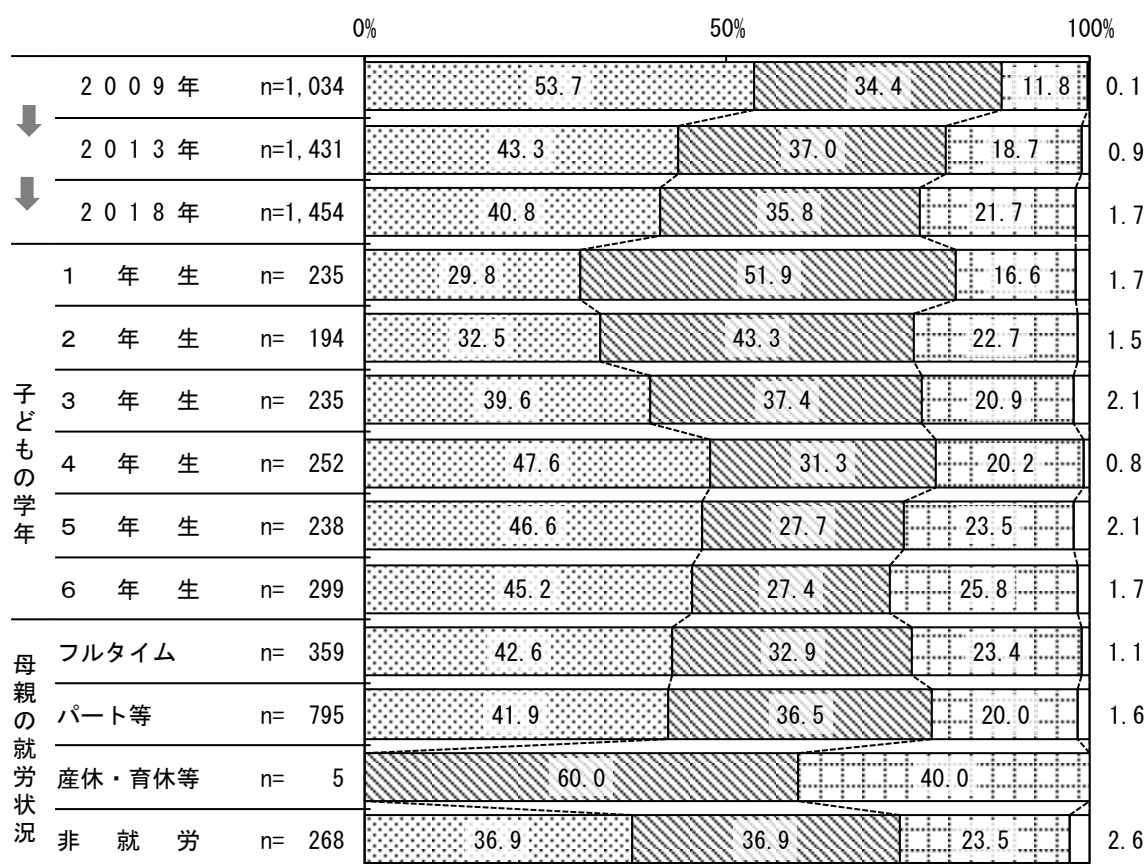
(2) 地域活動等への参加 [Q41]

地域の活動やスポーツなどのグループ活動への参加については、「現在参加している」が40.8%と最も高くなっており、「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」の35.8%と合わせると、75%以上に参加意向があるといえます。

過去の調査結果との比較では、参加意向が低下しています。

子どもの学年別にみると、1年生では「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が50%を超えています。

図表2-59 地域活動等への参加



現在参加している

現在は参加していないが、今後機会があれば参加させたい

現在は参加しておらず、今後も参加させるつもりはない

無回答

(3) 子どもが参加している・参加させたい活動〔Q42〕

地域の活動やスポーツなどのグループ活動への参加について、「現在参加している」または「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」と回答した1,114人に、子どもが参加している活動もしくは今後参加させたい活動をたずねたところ、「スポーツ活動」が75.8%と突出して高く、次いで「文化・音楽活動」が25.7%、「子ども会活動」が21.5%、「キャンプ等の野外活動」が20.7%などとなっています。

2013年の調査結果との比較では、ほとんどの項目が上昇している一方、「子ども会活動」が低下しています。

「その他」として、「子どもが興味を持ったこと」「自治会のイベント」「防災活動」「異年齢と遊ぶ活動」「発明など工作活動」などの記載がありました。

図表2-60 子どもが参加している・参加させたい活動（複数回答・2つまで）単位：nは人、他は%

